

令和2年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)

アーバンスポーツを活用した
スポーツ実施率向上のための実証実験

事業報告書

令和3年2月

一般社団法人さいたまスポーツコミッション

令和2年度 Sport in Life 推進プロジェクト
(スポーツ実施を阻害する課題解決のための実証実験)
「アーバンスポーツを活用したスポーツ実施率向上のための実証実験」
事業報告書

目次

本事業の目的	1
1. 本事業の実施概要.....	2
(1) 本事業のターゲット.....	2
(2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）	3
(3) 本事業で期待される効果.....	8
2. 本事業の実施内容.....	9
(1) 事業の実施概要.....	9
(2) 事業の実施結果.....	10
3. 本事業の実施体制.....	22
(1) 本事業の実施体制.....	22
(2) 本事業の実施スキーム.....	22
4. 事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）	23
(1) 効果検証方法	23
(2) 効果検証の結果.....	24
5. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）	27
(1) スポーツ実施改善要因の分析.....	27
(2) 本事業から得られた波及効果.....	30
6. 今後の事業展開予定.....	34
(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題.....	34
(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画.....	34
(3) 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取組.....	35
7. 終わりに	36
参考資料 アンケート調査票・分析結果詳細.....	37

本事業の目的

本事業は、さいたま市浦和美園地区において、子育て世代の親子を対象として、「アーバンスポーツ」や「オリンピックレガシーとしてのバスケットボール（3X3 含む）」を活用した2つの事業を実施することで、「新しい生活様式」の実践によりワークスタイルに変化が生じた子育て世代のビジネスパーソンの生活の中に、新たなスポーツの選択肢を提供し、子育て世代のより一層のスポーツ実施率の向上をもたらし、家事・育児の分業といった社会課題やアーバンスポーツのマナー問題といった競技課題の解決にもスポーツの力で貢献する「トリプルWINのモデル事業」を創出することを目的に実施したものである。

また、本事業は、本市開催予定の東京 2020 大会と可能な限り接点をひろげるためにも、地元のプロチームと連携できる部分はしっかりと連携してオリンピックのハードとソフトのレガシーづくりを目指して実施したものである。

◆ 「アーバンスポーツ」とは

アーバンスポーツとは、主に“都市資源”を活用した新しい運動種目である。

「都市型スポーツ」とも呼ばれ、一般的に競技に限ったスポーツではなく、非競技の種目もアーバンスポーツには含まれる。

東京 2020 大会にて、新たに「スケートボード」や「BMX」などのアーバンスポーツが正式種目に採用されるなど、若者を中心に近年人気を集めている。

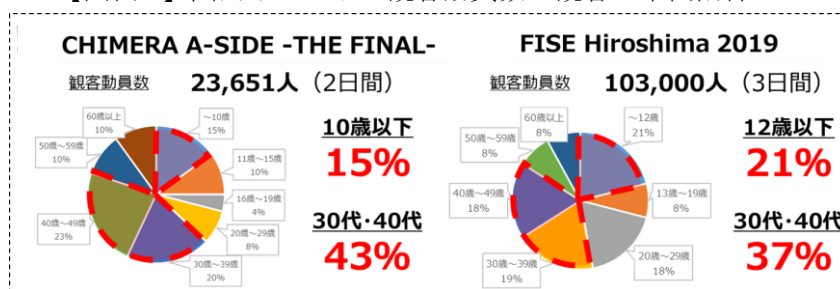
ただ、競技人口の増加とともに、一部の個人のモラルの欠如により、路上走行の取り締まりが行われるなど、競技者のマナー問題が課題として挙げられている。

◆ 「アーバンスポーツ」の特徴

アーバンスポーツは、野球やサッカーなどの既存スポーツのように大きなハードを必要とせず、ひとりで・自由に・手軽に取り組めることが魅力であることから、時間のない「ビジネスパーソン」や、スポーツをする場の確保が難しい「都市部の住民」と非常に相性が良いコンテンツである。

また、昨年国内で開催された代表的なアーバンスポーツのイベントである「CHIMERA A-SIDE THE FINAL」と「FISE Hiroshima 2019」の観客動員数と観客の年代割合を見ると、どちらのイベントにも「小学生以下の子どもたち」と「30代・40代の年齢層」の観客が多く訪れていることから、アーバンスポーツが「親子で一緒に楽しめるスポーツ」として広がりを見せていることがわかる。

【図表 1】国内イベントの観客動員数と観客の年代割合



1. 本事業の実施概要

(1) 本事業のターゲット

本事業では、メインターゲットを「ビジネスパーソン」、サブターゲットを「子ども（主に未就学児～小学校低学年）」とする。

本事業のメインターゲットの条件は以下のとおりである。

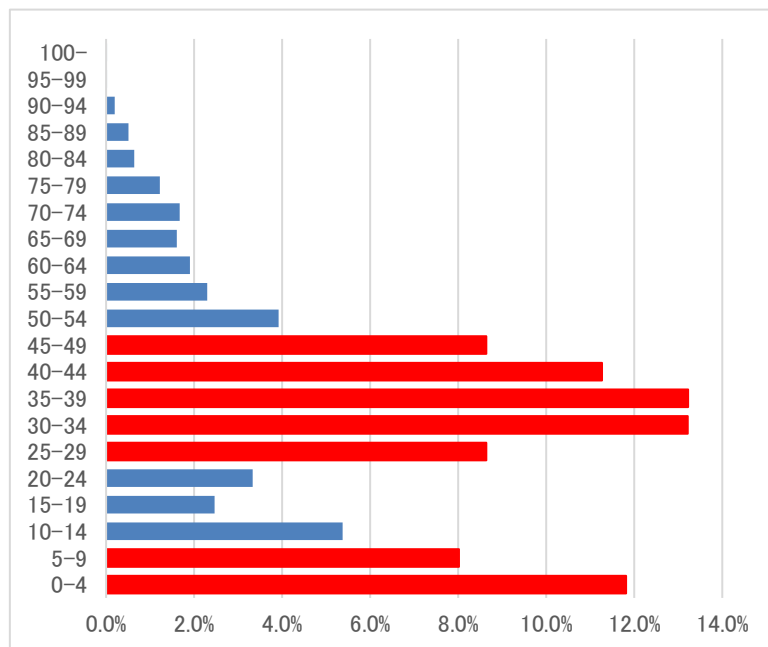
- ① 「30代」を中心とした「20代後半から40代前半」の既婚男性
- ② 未就学から小学校低学年の子どもを持つ親であること
- ③ 働く親（ビジネスパーソン）であること

以上の3点から、具体的なメインターゲットのイメージ像は、『休日に「育児（子どもと遊ぶこと）」に対して、「時間」と「お金」を使う必要がある男性』を想定している。

また、サブターゲットは、『メインターゲットの子ども（未就学児～小学校低学年）』を想定しており、メインターゲットが子どもと一緒に参加することで、より一層メインターゲットのスポーツ実施率向上を促すとともに、子どもたちのスポーツへの関心を高めていく。

ターゲットの居住エリアは、本事業の実証フィールドである「埼玉県さいたま市浦和美園地区」を想定しており、当該エリアの人口分布は、「0歳から14歳」と「25歳から49歳」の人口割合が全体の人口の大半を占めているという、さいたま市内の他の地域と比較して珍しい特徴的な人口分布を示す、いわゆる「新しいまち」である。

【図表 2】 浦和美園地区の人口分布（n=12,062）



<出所> 令和元年度埼玉県町（丁）字別人口調査（埼玉県）

本事業では、親子で一緒に参加できるスポーツをする機会・場所を増やす「場づくり」を行うことで、子育て世代のスポーツ実施率向上を図っていく。

(2) ターゲットのスポーツ実施の阻害要因、促進要因（事業実施前の仮説）

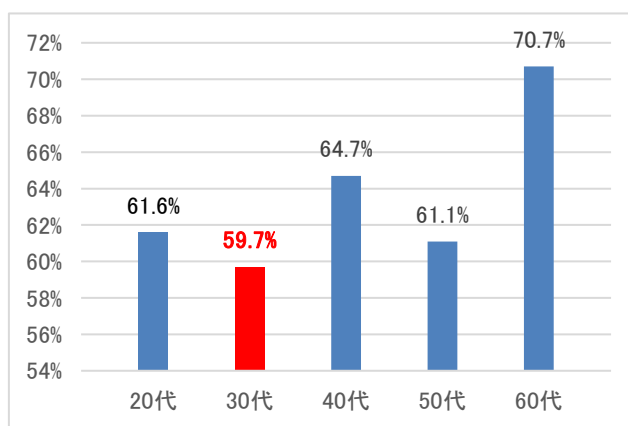
【メインターゲットのスポーツ実施を妨げている要因：阻害要因】

◆ さいたま市におけるスポーツ実施率の課題

令和元年度のさいたま市の成人の週1回以上のスポーツ実施率は「64.1%」である。

全国の自治体と比較して、さいたま市は全体的に高水準で推移しているが、年代別のスポーツ実施率には差が見られ、特に「30代」のスポーツ実施率の向上を課題としている。

【図表3】さいたま市のスポーツ実施率（年代別）



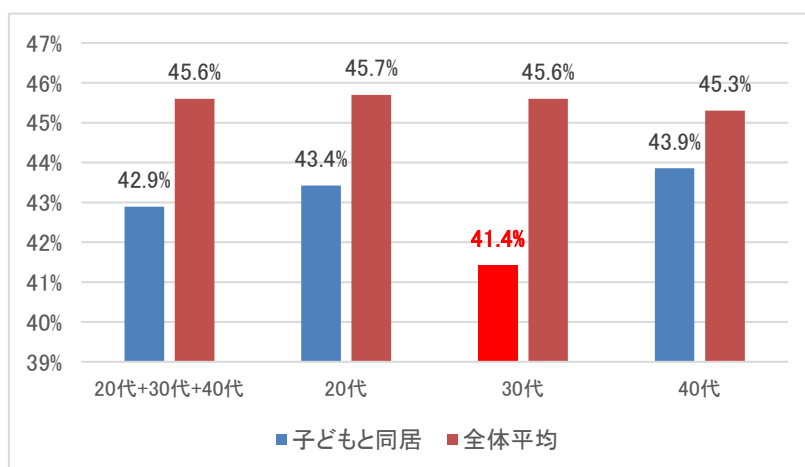
<出所> 令和元年度市民意識調査（さいたま市）

◆ 子育て世代のスポーツ実施率の現状

「30代」は、いわゆる「子育て世代」であり、自身も働きながら、家事・育児に時間を割かなければならない人が多数存在している。

令和元年度のスポーツ庁の調査によると、子どもと同居する「30代」のスポーツ実施率は、全体平均よりも「約4ポイント」落ち込んでいる。

【図表4】子どもと同居する「子育て世代」のスポーツ実施率



<出所> 令和元年度スポーツの実施状況等に関する世論調査（スポーツ庁）

◆ 浦和美園地区におけるスポーツ実施阻害要因

一般社団法人美園タウンマネジメントでは、地域のニーズを把握するため、浦和美園地区の住民を対象とした住民アンケートを実施している。

令和 2 年 5 月に実施した調査によると、浦和美園地区の住民の「運動／スポーツをする際の妨げ」となっている要因として、「時間がとれない」、「きっかけが無い」、「気軽に活動できる場所が無い」が上位 3 項目という結果であった。

子育て世代が人口の大半を占めている浦和美園地区の住民にとって、「時間がとれない」ことが、最も大きなスポーツ実施阻害要因となっていることがわかる。

【図表 5】 運動／スポーツをする際の妨げ（一部抜粋）（n=261）

選択肢	回答数	回答率
時間がとれない	164	62.8%
きっかけが無い	99	37.9%
気軽に活動できる場所が無い	71	27.2%
お金がかかる	51	19.5%
参加したいクラブ/サークル/教室等が無い	45	17.2%

<出所> 美園スタジアムタウン住民アンケート調査 vol.1（令和 2 年 5 月）

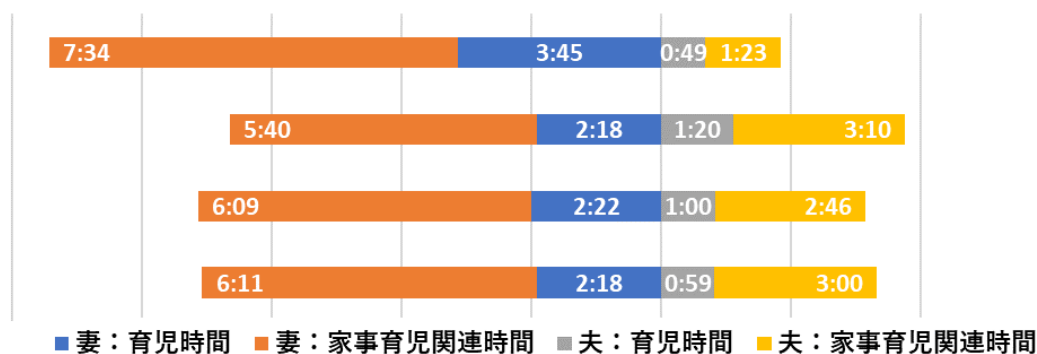
◆ 子育て世代の夫婦間での家事・育児の分業時間

「20 代後半から 40 代前半」のいわゆる「子育て世代」では、自身も働きながら、家事・育児に時間を割かなければならない人が多数存在しており、子育て世代にとって、スポーツ実施の「時間が取れない」ことは、全国的に見ても阻害要因の最たるものでないかと考える。

本事業では、子育て世代がスポーツ実施の「時間が取れない」要因として、1 日に「家事・育児」に費やす時間の長さや夫婦間での分業時間の差に注目する。

日本は長年欧米諸国と比較して、1 日当たりの夫の「家事・育児時間」が極端に短いと言われており、平成 28 年度の調査からもその差は歴然であることがわかる。

【図表 6】 6 歳未満の子どもをもつ夫婦の育児・家事関連時間



<出所> 株式会社ワークライフバランス（平成 28 年社会生活基本調査：総務省）

【メインターゲットのスポーツ実施を促していく要因：促進要因】

◆ 子育て世代の夫が習慣的に行っている育児の内容

令和元年9月、日本労働組合総連合会（連合）は、同居している子どもがいる25歳から49歳の有職男性（パート・アルバイトを除く）1,000人を対象に、家庭での家事・育児時間に関する調査を実施している。

この調査によると、夫が「仕事がある日」に行っている育児の項目では、1位の「子どものお風呂」に続き、「子どもの遊び相手」が2位という結果であった。

「子どもの遊び相手」は、当然、家の中で夫が子どもと一緒に遊ぶことも含まれているであろうが、公園など、外に出かけて子どもの遊び相手になることも含んでいると推測される。

【図表7】仕事がある日に行っている育児（一部抜粋）（n=1,000）

選択肢	回答数	回答率
子どものお風呂	370	37.0%
子どもの遊び相手	346	34.6%
子どもを起こす	320	32.0%
子どもの歯磨き	245	24.5%
子どもの寝かしつけ	225	22.5%

<出所> 男性の家事・育児参加に関する実態調査2019（日本労働組合総連合会）

子育て世代のスポーツ実施の時間を増加させる方法として、①日常行っている家事・育児のなかに運動・スポーツの機会を取り入れること（家事・育児時間の活用）、②限られた余暇時間を運動・スポーツで活用してもらうこと（余暇時間の活用）が必要となる。

ただ、子育て世代は、男女問わず、仕事・家事・育児に忙しく、短時間であっても新たにスポーツ実施に使う時間を確保することが容易ではないことは明白である。

そのため、本事業では、子育て世代に対して、無理にスポーツ実施の時間を確保させるような方法ではなく、日常行っている家事・育児のなかに運動・スポーツの機会を取り入れることで、子育て世代の生活に即した形でスポーツ実施の時間を確保する。

また、現状、子育て世代では、夫婦間で家事・育児時間に不均衡が生じているため、ターゲットを「夫」とすることで、家庭内での「夫の家事・育児時間」を増加させる効果をもたらすと考える。

さらに、子育て世代の夫は「子どもと遊ぶこと」が習慣化されているため、夫が協力的に取り組みやすい育児項目である「遊び」のなかに、「運動・スポーツ」を取り入れていくアプローチを選択することで、より効率的にスポーツ実施時間の確保につながると期待する。

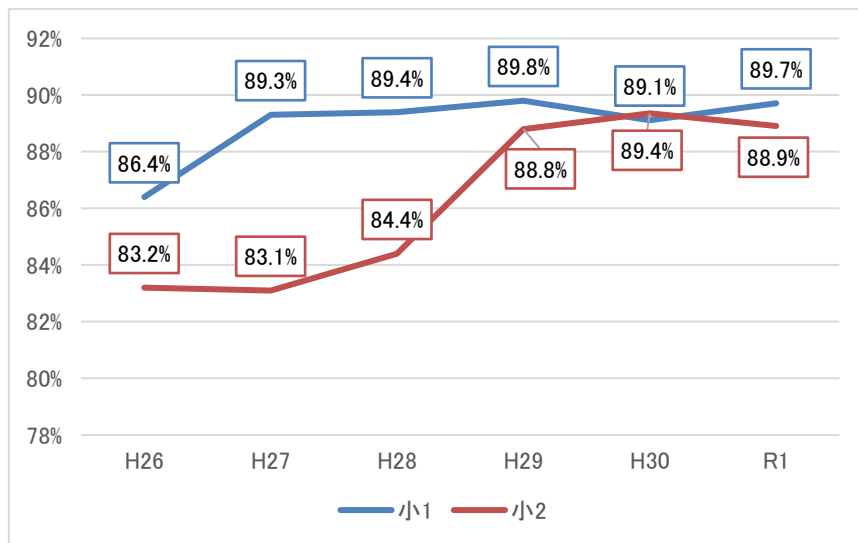
したがって、本事業では、「親子で一緒に」スポーツを行う機会・場所を創出することで、単にターゲットのスポーツ実施時間を確保する取組となるだけでなく、夫が子どもを連れて運動・スポーツに取り組むという意味合いで、夫の「育児時間」が増加するとともに、夫婦間の家事・育児時間の不均衡是正につながるのではないかと考えている。

◆ さいたま市における小学校低学年の子どもたちのスポーツ実施率

さいたま市では、毎年、さいたま市教育委員会が市内の小学校・中学校の全生徒を対象に、「さいたま市学習状況調査」を実施しており、そのなかの「生活習慣に関する調査」にて、小中学生のスポーツ実施率（体育以外で週に1日以上運動を実施）を調査している。

さいたま市における小学校低学年の「スポーツ実施率」は「90%」近い数値を示しており、子どもたちはスポーツへの興味・関心が非常に高いことがわかる。

【図表 8】さいたま市の子どもたちのスポーツ実施率（小学校1年生・2年生）



<出所> 令和元年度学習状況調査（さいたま市教育委員会）

前述のとおり、本事業のターゲットである子育て世代は、「時間がない」ことがスポーツ実施の阻害要因となっているため、「親子で一緒に」スポーツをする場所を用意した場合、同時にターゲットが足を運ぶきっかけ（促進要因）を用意することも必要不可欠である。

本事業において、この促進要因は「サブターゲット（未就学児から小学校低学年まで）のスポーツに対する興味・関心の高さ」であると考えている。

つまり、さいたま市内に親子で一緒にスポーツをする場所を作った場合、「スポーツに対する興味・関心が高い」という児童の特徴が促進要因となり、親が子どもを連れだすという構図ではなく、むしろ、子どもたちが強い興味を示し、親（メインターゲット）を連れて、一緒に足を運んでくれるという構図が期待できるのではないかと考えた。

したがって、本事業にて、「親子で一緒に」スポーツを行う機会・場所を創出することは、メインターゲットにとって「スポーツ実施時間」と「育児時間」の確保につながるるとともに、サブターゲットのさらなる「スポーツ実施時間」の確保と「スポーツに対する興味・関心」の向上をもたらすものになると期待している。

□ ターゲットのスポーツ実施阻害要因

本事業のターゲットのスポーツ実施阻害要因を以下のとおり整理する。

[メインターゲットのスポーツ実施を妨げている要因：阻害要因]

- ① 時間がとれない
- ② きっかけが無い
- ③ 気軽に活動できる場所が無い

□ ターゲットのスポーツ実施促進要因

本事業のターゲットのスポーツ実施促進要因を以下のとおり整理する。

[メインターゲットのスポーツ実施を促していく要因：促進要因]

- ① メインターゲットが行う日常の家事・育児時間を活用すること
- ② サブターゲットのスポーツに対する興味・関心が高いこと

【コロナ禍を考慮した阻害要因を解決するための取組の方向性】

◆ コロナ禍における浦和美園地区住民の生活習慣の変化

令和2年6月に実施した調査によると、緊急事態宣言解除後、「With コロナ」における各自の生活習慣の変化として、美園地区の住民のうち、「家事・育児」関連に費やす時間が増えたと答えた人の割合は「40%」を上回っている。一方で、「運動・スポーツをする機会・時間」が減ったと答えた人の割合も「40%」以上という結果であった。

【図表 9】 新型コロナ流行に係る生活習慣の変化（一部抜粋）（n=502）

選択肢	掃除・洗濯・炊事等の家事をする時間		育児をする時間		運動・スポーツをする機会・時間	
	回答数	回答率	回答数	回答率	回答数	回答率
大きく減った	5	1.0%	3	0.6%	116	23.1%
少し減った	9	1.8%	4	0.8%	105	20.9%
変わらない	187	37.3%	84	16.7%	109	21.7%
少し増えた	172	34.3%	110	21.9%	86	17.1%
大きく増えた	121	24.1%	116	23.1%	31	6.2%
(元々してない)	8	1.6%	185	36.9%	55	11.0%

<出所> 美園スタジアムタウン住民アンケート調査 vol.2（令和2年6月）

昨今の新型コロナウイルス感染症の影響により、日本人のワークスタイルには変化が生まれ、ビジネスパーソンが家事・育児に積極的に参加する家庭も増え、ビジネスパーソンがスポーツ実施に対するアプローチには、従来の「通勤時間」や「休憩時間」に加え、ビジネスパーソンが「家事・育児時間」の活用法を検討すべきではないかと考える。

◆ メインターゲットのスポーツ実施阻害要因を解決するための取組の方向性

浦和美園地区において、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐ「新しい生活様式」が実践されていくなかで、子育て世代のビジネスパーソンの生活習慣に変化が生じ、家事や育児に費やす時間が増えているからこそ、「家事・育児時間」のなかにスポーツを取り入れていくことで、子育て世代に「運動・スポーツの機会・時間」を提供し、子育て世代のスポーツ実施率を向上させる効果的なアプローチになると考える。

また、「新しい生活様式」が提唱されている、この時代だからこそ、本事業を旧来のライフスタイルにおける「社会課題（夫婦間での家事・育児時間の分業）」にアプローチする好機と捉えて、メインターゲットを「男性（夫）」に絞り、阻害要因を解決するための取組の方向性を以下のとおりとした。

【図表 10】 阻害要因を解決するための方向性

ターゲット像		阻害要因	解決するための方向性
メイン	休日に「育児(子どもと遊ぶこと)」に対して、「時間」と「お金」を使う必要がある「男性」 ①「20代後半から40代前半」の既婚男性 ②子ども(未就学児～小学校低学年)を持つ親 ③働く親(ビジネスパーソン)であること	時間がとれない	「新しい生活様式」の実践により増加傾向にある「育児時間(子どもと遊ぶこと)」のなかでスポーツをする「時間」の確保
		きっかけが無い	「親子で一緒に」楽しめるスポーツの「機会」の提供
サブ	メインターゲットの子ども(未就学から小学校低学年まで)	気軽に活動できる場所が無い	「親子で一緒に」楽しめるスポーツの「場所」の提供

(3) 本事業で期待される効果

本事業では、プログラム実施前、当日、実施後にアンケート調査を実施し、メインターゲットへの効果検証を行う。

期待される効果は以下のとおりである。

【メインターゲットへの期待される効果】

① 週1日以上スポーツ習慣の定着：＜スポーツ実施者の増加＞

プログラム参加者のうち、プログラムの終了後、「週1日以上スポーツ習慣」が定着した参加者の割合が「85%」となること。

併せて、プログラム参加者のスポーツ実施意欲が増加すること。

② 家事・育児時間の増加：＜社会課題解決＞

プログラム参加者のうち、プログラムの実施前・後で、夫の「家事・育児時間」が増加すること。

【サブターゲットへの期待される効果】

① スポーツ実施に対する好意的評価

プログラム参加者のうち、「運動・スポーツがより好きになった」、「運動・スポーツをする時間が増える」と答えた参加者の割合が「85%」となること。

併せて、プログラム参加後のスポーツ実施意欲が増加すること。

2. 本事業の実施内容

(1) 事業の実施概要

「浦和美園地区」において、メインターゲット及びサブターゲットである「子育て世代の親子」との親和性が高い「アーバンスポーツ」を活用した2つの事業を実施する。

【メインターゲット及びサブターゲットを対象とした事業】

◆ 事業①：レンタルパーク事業 《自由で手軽で身近な体験場所》

子育て世代の親子を対象に自由で気軽に利用できるアーバンスポーツパークを開設。

□ 具体的な実施内容

- ・ 浦和美園地区の高架下に「2か所」、3か月間限定で利用料無料のパークを設置
- ・ 親子で一緒に楽しめるアーバンスポーツコンテンツを「6種類」用意

(BMX/キックバイク/スケートボード/ブレイブボード/インラインスケート/3X3)

- ・ 手ぶらで楽しめるように、レンタル用品一式はすべて無料貸出可能

◆ 事業②：体験教室事業 《自由で気軽に身近な体験機会》

子育て世代の親子を対象に自由で気軽なアーバンスポーツの体験教室を開催。

□ 具体的な実施内容

- ・ 浦和美園地区の高架下、公園、調節池の3か所を活用して体験教室を提供
- ・ 様々なアーバンスポーツコンテンツを集めて実証期間中「3回」開催

(BMX/スケートボード/インラインスケート/フリースタイルフットボール/フリースタイルバスケットボール/3X3)

- ・ アーバンスポーツのトッププレイヤーによる“実演”と“講習”を実施

□ ターゲットのスポーツ実施阻害要因と実施内容の狙い

ターゲットのスポーツ実施を阻害する要因は「時間がとれない」、「きっかけが無い」、「気軽に活動できる場所が無い」という3項目であった。

各事業での阻害要因に対するアプローチは以下のとおりである。

【図表 11】 阻害要因に対するアプローチの詳細

項番	事業の特徴	阻害要因		
		時間がとれない	きっかけが無い	気軽に活動できる場所が無い
1	【事業①/②】 参加対象を「親子」に設定	◎ <促進要因①> 家事・育児時間を活用	◎ <促進要因②> 子どもが積極的に参加意向を示す	-
2	【事業①/②】 参加費用を「無料」に設定	-	○ 参加意欲を高める	◎ 家計の負担が無い
3	【事業①/②】 アーバンスポーツを活用	○ ひとりで自由に実施できる	○ 親子で一緒に実施可能なコンテンツ	○ 都市部で実施可能なコンテンツ
4	【事業①/②】 スポーツを「する」場所の確保	-	○ 運動意欲を高める	◎ 新たな場所の確保
5	【事業②】 スポーツを「みる」場所の確保	-	○ 運動意欲を高める	-
6	【事業②】 トッププレイヤーによる教室	-	○ 初心者も安心して参加可能	-
7	【事業①/②】 未利用地の活用 (高架下/調節池)	-	○ 新しい運動施設として興味を惹く	◎ 身近な場所を運動施設として活用
8	【事業①/②】 無料レンタル品の提供	-	○ とりあえずやってみるにつながる	◎ 手ぶらでも参加可能

(2) 事業の実施結果

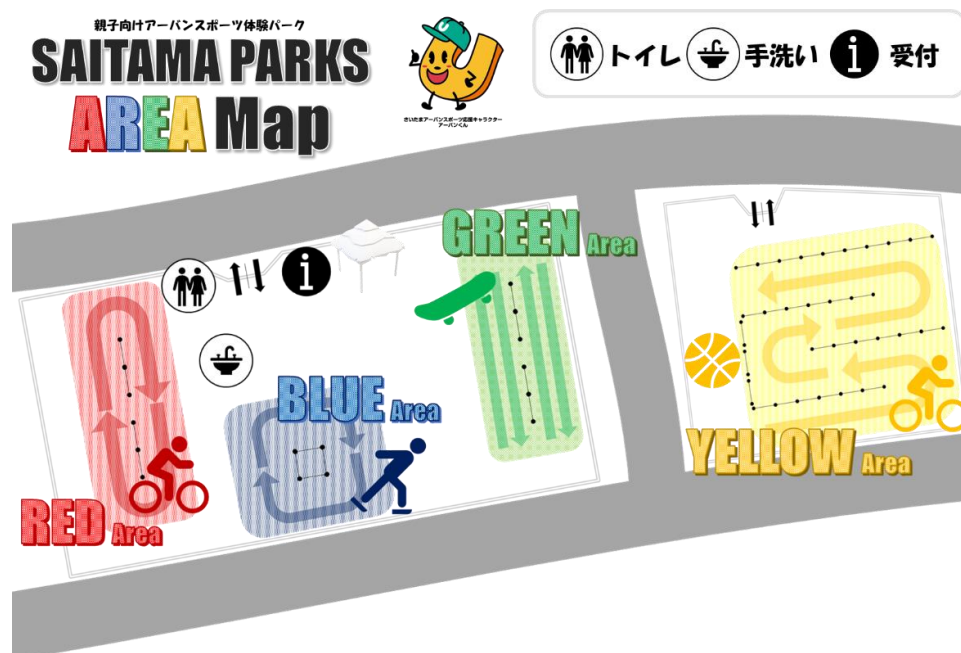
◆ 事業①：レンタルパーク事業 《自由で手軽で身近な体験場所》

各種コンテンツのレンタル品を用意した仮設アーバンスポーツパークを開設した。

【図表 12】 レンタルパーク事業の概要

イベント名	親子向けアーバンスポーツ体験パーク「SAITAMA PARKS」
実施期間	令和2年10月11日(日)～令和2年12月19日(土):土日祝のみ【22日間】
実施時間	10:00～16:00(1日6時間)
実施場所	美園駅北陸橋高架下
参加者数	総参加者数:1,321人(大人:654人、子ども:657人)
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・6種類のアーバンスポーツコンテンツが体験できるエリアを設置。 ・コンテンツごとにエリア分けを行い、参加者は1時間ごとの事前予約制。 ・事前予約は電子媒体を利用し、代表者が予約フォームに登録。 ・各エリアにおいて各種コンテンツの無料レンタルを実施。

【図表 13】 レンタルパーク事業の会場図／エリア紹介



エリア	実施コンテンツ	対象	実施可能人数	特徴
レッドエリア	キックバイク/BMX	大人/子ども	6人/60分	キックバイク初心者エリアを設置 (BMXの体験コースを一部設置)
ブルーエリア	インラインスケート	大人/子ども	6人/60分	親子で一緒に楽しめるエリア
グリーンエリア	ブレイブボード/スケートボード	大人/子ども	6人/60分	親子で一緒に楽しめるエリア
イエローエリア	3×3/キックバイク/BMX (時間ごとに変更)	大人/子ども	6人/60分	親子で自由に楽しむエリア (アイテム持参者が対象)

□ 参加者の属性

参加者の属性は以下のとおりである。

レンタルパーク事業の参加者総数は「1,321名」であり、大人が「654名」、子どもが「667名」という結果であった。

【図表 14】参加者数集計（大人／子ども、男性／女性）

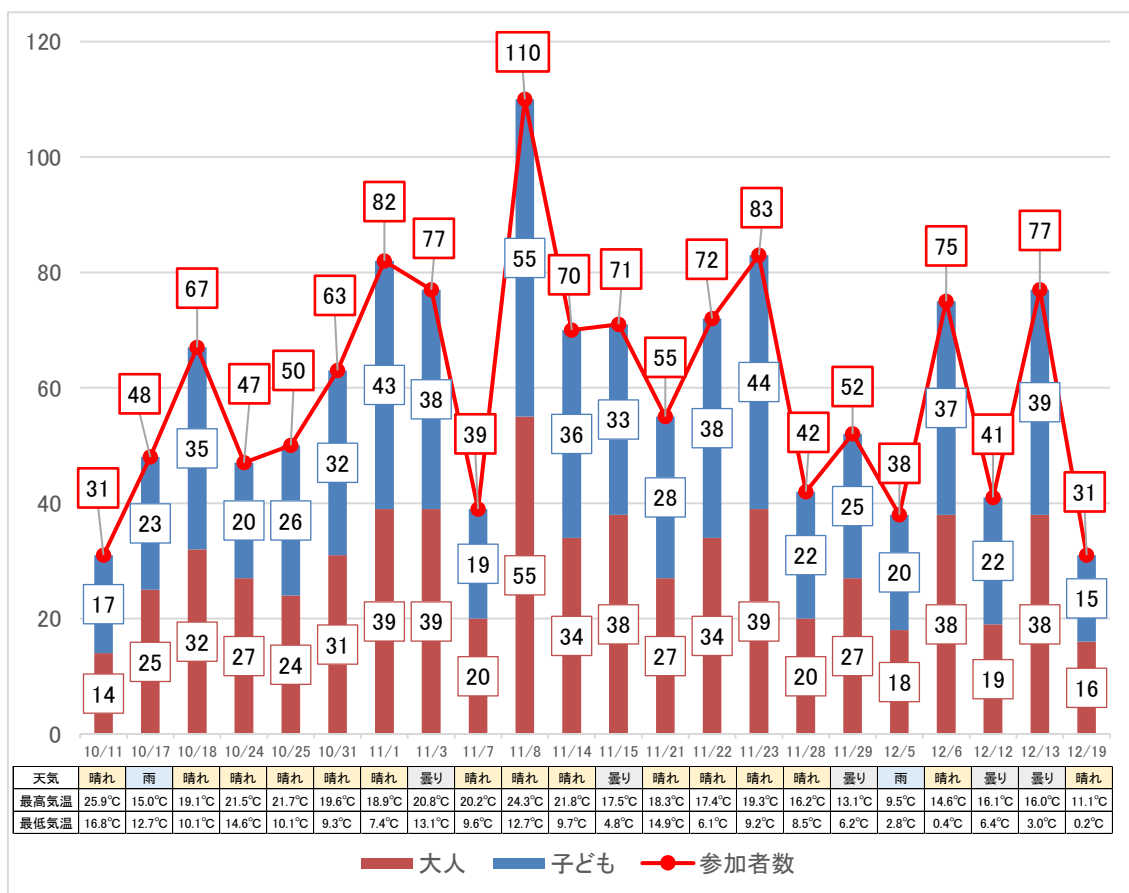
参加者数	男性		女性		合計
大人	323	49.4%	331	50.6%	654
子ども	343	51.4%	324	48.6%	667
合計	666	50.4%	655	49.6%	1,321

以下の図はレンタルパーク事業の参加者数の推移である。

1日の平均参加人数は「約60名」であり、11月8日（日）には「110名」という1日の最多参加人数を記録している。屋外イベントであることから、実施日の天候に参加者数が左右される傾向にあった。

なお、10月18日（日）、11月7日（土）はB：体験教室事業と同時開催であった。

【図表 15】参加者数の推移（大人／子ども）、実施日の天候



□ 当日の様子

A) BMX/キックバイク : 386名 (大人199名、子ども187名)

【会場】 レンタルパーク レッドエリア

【レンタル品】 キックバイク : 6台、BMX : 3台

キックバイクは未就学児を中心に人気であり、自身のキックバイクを所有している参加者も多く見受けられた。BMXは親子ともに初めて体験する方が多く、今回の体験をきっかけにBMXを使って初めて自転車に乗ることができた子どももいた。

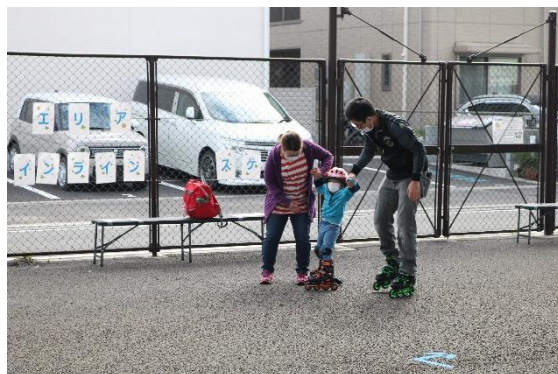


B) インラインスケート <ブルー> : 476名 (大人228名、子ども248名)

【会場】 レンタルパーク ブルーエリア

【レンタル品】 インラインスケート子ども用 : 10セット、大人用 : 6セット

インラインスケートが今回用意したコンテンツの中で最も多くの参加者を集めた。大人、子どもともに人気であり、父親の中には学生時代の経験からレベルの高い参加者もあり、親が子どもに滑り方を実演する場面が多々見受けられた。



C) スケート/ブレイブボード : 359名 (大人177名、子ども182名)

【会場】 レンタルパーク グリーンエリア

【レンタル品】 スケートボード : 6台、ブレイブボード : 4台

スケートボードは特に初めて取り組む参加者が多く、大人、子どもともに悪戦苦闘しながらチャレンジしていた。ブレイブボードについてはコロナ禍を理由に始めた初心者の子どもたちが多く、今回の企画が良い練習会場となっていた。

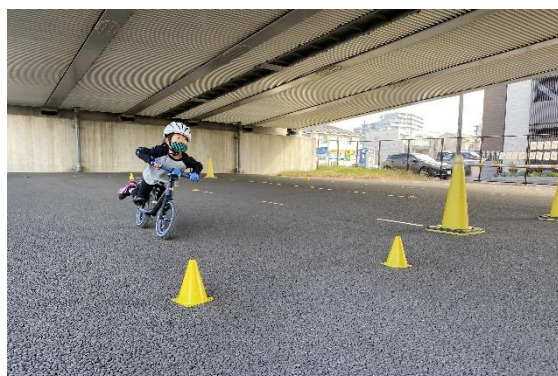


D) 3X3/キックバイク/BMX : 100名 (大人50名、子ども50名)

【会場】 レンタルパーク イエローエリア

【レンタル品】 バスケットボール : 5個、(仮設バスケットゴール : 1台)

イエローエリアのキックバイク及びBMXは持参者専用としていたことから、やや参加者の集客が難しかった。3X3については、さいたまブロンコスの選手が不定期で参加してくれており、選手と一緒にバスケットボールを楽しむ姿が見受けられた。



※ その他共通レンタル品としてプロテクターセットを「35セット」用意した。

◆ 事業②：体験教室事業 《自由で手軽で身近な体験機会》

アーバンスポーツのトッププレイヤーによる体験教室を開催した。

【図表 16】体験教室事業の概要

イベント名	親子向けアーバンスポーツ体験パーク「SAITAMA PARKS 体験教室」
実施期間	令和2年10月18日(日)、11月7日(土)、12月20日(日)【3日間】
実施時間	13:00～16:00(1日3時間)
実施場所	レンタルパーク(ブルー／グリーン)、美園三丁目第二公園、大門上池調節池
参加者数	総参加者数:245人(大人:113人、子ども:132人)
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・CHIMERA Union及びさいたまブロンコスから講師を招いて体験教室を実施。 ・高架下のレンタルパークとともに、美園地区内の公園と調節池を活用。 ・無料のレンタル品は同じく用意しており、参加者は手ぶらで参加可能。 ・予約方法等の参加時のルールはレンタルパークと同様の流れ。

【図表 17】体験教室事業の実施コンテンツ／実施日ごとの参加人数

日程	① 10月18日(日)	② 11月7日(土)	③ 12月20日(日)
場所	美園三丁目第二公園、レンタルパーク(ブルー)	美園三丁目第二公園、レンタルパーク(グリーン)	大門上池調節池
コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・インラインスケート ・FSバスケットボール 	<ul style="list-style-type: none"> ・スケートボード ・FSフットボール 	<ul style="list-style-type: none"> ・BMX ・FSフットボール ・FSバスケットボール ・3×3 ほか
参加人数	50人 (大人:23名) (子ども:27名)	44人 (大人:19名) (子ども:25名)	151人 (大人:71名) (子ども:80名)

□ 参加者の属性

参加者の属性は以下のとおりである。

体験教室事業の参加者総数は「245名」であり、大人が「113名」、子どもが「132名」という結果であった。

【図表 18】参加者数集計(大人／子ども、男性／女性)

参加者数	男性		女性		合計
大人	54	47.8%	59	52.2%	113
子ども	83	62.9%	49	37.1%	132
合計	137	55.9%	108	44.1%	245

□ 当日の様子

<令和2年10月18日(日)>

A) インラインスケート : 18名(大人8名、子ども10名)

【会場】 レンタルパーク(ブルーエリア)

【講師】 CHIMERA Union : 2名

プロインラインスケーターによる立ち方、安全な転び方、滑り方の基本、簡単な曲がり方や止まり方などインラインスケートの基本となる技術のレクチャーを実施。



B) フリースタイルバスケットボール : 32名(大人15名、子ども17名)

【会場】 美園三丁目第二公園

【講師】 CHIMERA Union : 2名

子どもたちでも簡単にチャレンジできる遊びの要素を取り入れながら、基本的なボールの使い方や、初歩的なテクニックの体験を実施。



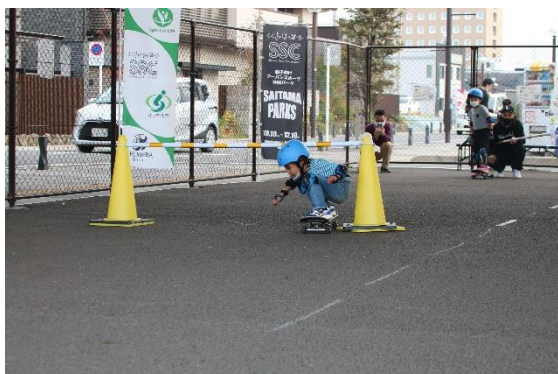
<令和2年11月7日(土)>

C) スケートボード : 19名(大人9名、子ども10名)

【会場】 レンタルパーク(グリーンエリア)

【講師】 CHIMERA Union : 3名

スケートボードの基本的な乗り方や立ち方などの初心者向けのレクチャーを始め、経験者の子どもたちにはスラロームやボード上での体重移動など今後の技術向上につながる体験を実施。



D) フリースタイルフットボール : 25名(大人10名、子ども15名)

【会場】 美園三丁目第二公園

【講師】 CHIMERA Union : 2名

サッカーボールを使い、リフティングや足捌きなどフリースタイルフットボールの基本的な技術のレクチャーを実施。併せて、プロのプレイヤーによる簡単なデモンストレーションを実施した。

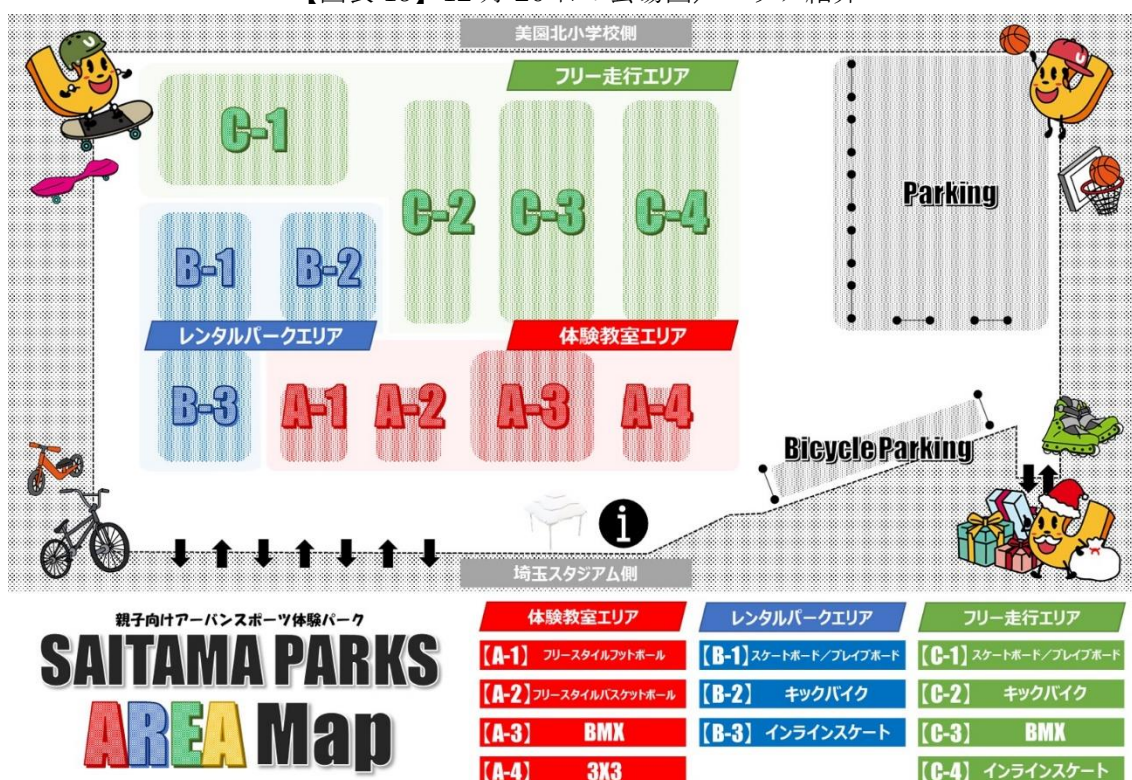


<令和2年12月20日(日)>

12月20日に開催した3回目の体験教室では、浦和美園地区で広大な敷地を有する「大門上池調節池※」を活用して、すべてのアーバンスポーツのコンテンツを集約し、来場者の人数を制限しながら、中規模のアーバンスポーツイベントを実施した。

「体験教室エリア」以外にも、「レンタルパークエリア」ではレンタルパーク事業と同様の事業を実施し、「フリー走行エリア」では参加者が自身のコンテンツを持参して誰でも自由に楽しめるエリアを設置した。

【図表19】12月20日の会場図／エリア紹介



体験教室エリア		レンタルパークエリア		フリー走行エリア	
A-1	フリースタイルフットボール	B-1	スケートボード／ブレイブボード	C-1	スケートボード／ブレイブボード
A-2	フリースタイルバスケットボール	B-2	キックバイク	C-2	キックバイク
A-3	BMX	B-3	インラインスケート	C-3	BMX
A-4	3X3			C-4	インラインスケート

※ だいもんかみいけちようせつつけ
大門上池調節池

令和2年10月より「オープンスペース」として供用を開始した。

総面積は「約 35,000 m²」(アスファルト面、クローバー面、土面あり)

A) 【A-1】 フリースタイルフットボール : 33名 (大人18名、子ども15名)

【講師】 CHIMERA Union : 2名

フリースタイルフットボールの基本となるリフティングや足さばきなどの初歩的な技術から、中級者向けの少し高度な技術まで、参加した子どもたちに合わせたレクチャーを実施した。



B) 【A-2】 フリースタイルバスケットボール : 19名 (大人9名、子ども10名)

【講師】 CHIMERA Union : 3名

年齢に合わせたサイズのボールを使い、簡単なボールコントロールや基本的な技術を子どもたちでも簡単にチャレンジできる遊びの要素を取り入れながらレクチャー、ペンの上でのボール回しの体験も実施。



C) 【A-3】 BMX : 26名 (大人12名、子ども14名)

【講師】 CHIMERA Union : 2名

準備体操から始まり、正しいBMXの乗り方、安全なブレーキコントロールなどをレクチャー、その後CHIMERAオリジナルセッションを用いたコースを使い、さまざまなチャレンジを実施した。



D) 【A-4】 3X3 : 31名 (大人14名、子ども17名)

【講師】 さいたまブロンコス : 2名

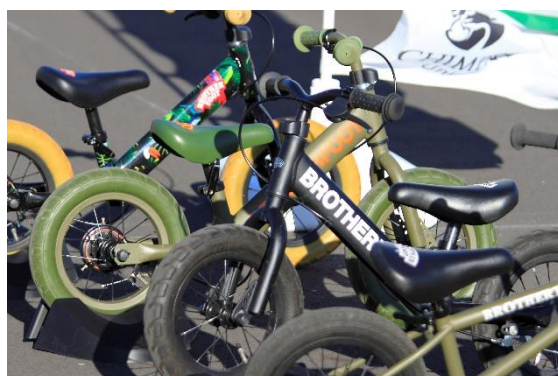
さいたまブロンコスの選手が直接ドリブル、パス、シュートなどバスケットボールの基本的な動きをレクチャーし、初めてバスケットボールに触れる子どもたちでも簡単にチャレンジできるような企画を取り入れて3X3の体験会を実施した。



E) 【B-1】 スケート/ブレイブボード : 17名 (大人8名、子ども9名)



F) 【B-2】 キックバイク : 7名 (大人2名、子ども5名)



G) 【B-3】 インラインスケート : 18名 (大人8名、子ども10名)



H) 【C-1~4】 フリー走行エリア : <参考値> 102名 (大人38名、子ども64名)



※ フリー走行エリアの参加者数は「参加者数集計」には含まれない。

□ アンケート調査の概要

項番	内 容	質問数	対 象	実施方法	実施期間	取得数(N)	
						大人	子ども
1	事前アンケート	10問+属性	大人	インターネット	10月5日(月)～12月20日(日)	431	-
2	当日アンケート	13問+属性	大人	紙	10月11日(日)～12月20日(日)	767	-
3	当日アンケート	12問+属性	子ども	紙	10月11日(日)～12月20日(日)	-	799
4	事後アンケート	19問	大人	インターネット	10月26日(月)～	136	-

□ アンケート調査の内容

◆ 事前アンケート

【対 象】大人（代表者1名） 【設問数】10問+α

【調査方法】インターネット：SELECTTYPE

【設問内容】運動頻度、家事・育児時間、参加理由など

◆ 当日アンケート

【対 象】大人、子ども 【設問数】（大人用）13問+α（子ども用）12問+α

【調査方法】紙

【設問内容】（大人）体験種目、スポーツ実施意欲、課題解決、事業評価など

（子ども）体験種目、スポーツ実施意欲、事業評価、印象評価など

◆ 事後アンケート

【対 象】大人（代表者1名） 【設問数】19問

【調査方法】インターネット：(株)政策基礎研究所アンケートシステム

【設問内容】運動頻度、家事・育児時間、事業性評価など

□ 「新型コロナウイルス感染対策及び安全対策同意書」の取得

新型コロナウイルスの感染症予防、会場内の安全対策のため、会場受付の検温時、代表者1名に「同意書」の内容を確認したうえで必要事項の記入を求めた。

【同意書記入事項】

- ・ 氏名（全員分）
- ・ 体温（全員分）
- ・ 参加日
- ・ 連絡先（代表者のみ）

【様式】

The form is titled '新型コロナウイルス感染対策及び安全対策同意書' (Agreement on COVID-19 Infection Prevention and Safety Measures). It includes the following sections:

- 個人情報（お名前）** (Personal Information): Fields for name, address, and phone number.
- 検温** (Temperature): A section for recording temperature with a scale from 35°C to 42°C.
- 参加日** (Date): A field for the date of participation.
- 連絡先** (Contact Information): A field for the contact person's name.
- 同意書本文** (Agreement Text): A section with several numbered points explaining the purpose of the agreement and the responsibilities of the participants.

3. 本事業の実施体制

(1) 本事業の実施体制

本事業の実施体制は下記の通り。

実証フィールド	さいたま市浦和美園地区
代表団体	一般社団法人さいたまスポーツコミッション*
構成団体	さいたま市役所*、一般社団法人 CHIMERA Union*
構成団体以外の 参画団体	

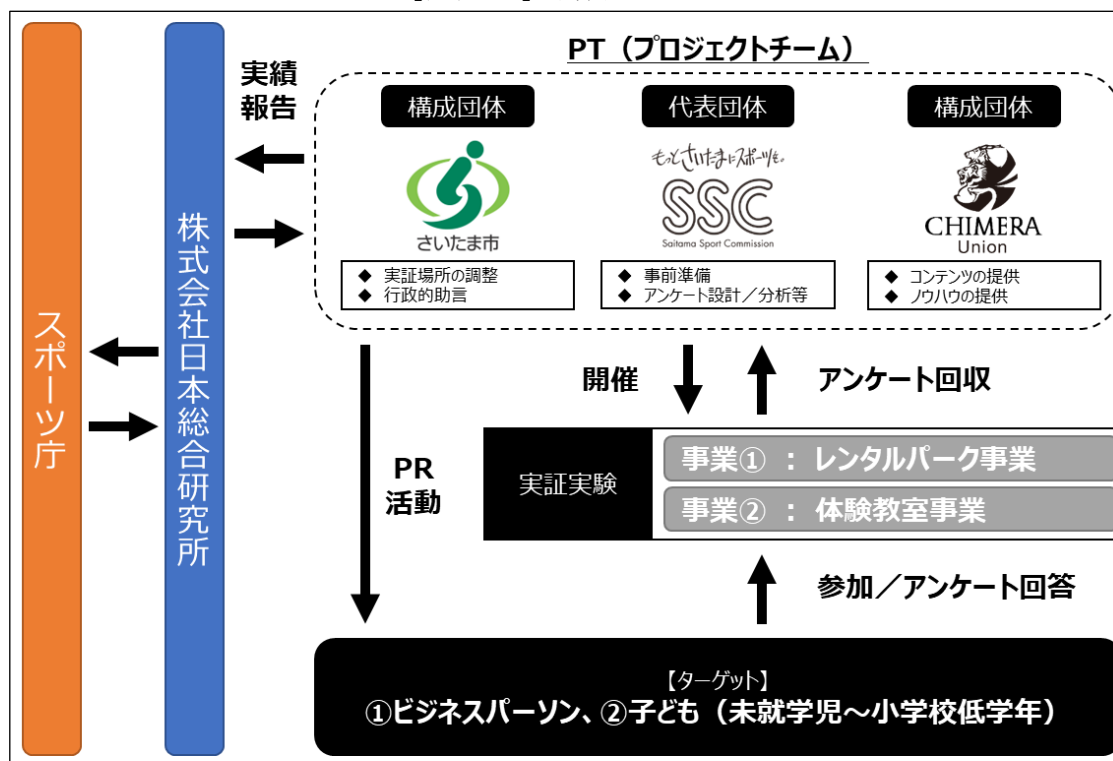
※ 「*」は Sport in Life コンソーシアム加盟団体

(2) 本事業の実施スキーム

本事業における代表団体及び構成団体の役割は以下のとおりである。

事業①及び事業②ともに、一般社団法人さいたまスポーツコミッションが中心となって、さいたま市が有する「実証フィールド：浦和美園地区」と、一般社団法人 CHIMERA Union が有するアーバンスポーツのコンテンツやアーバンスポーツイベント等に関するノウハウを活用して事業を実施する。

【図表 20】 事業実施スキーム



4. 事業の実施効果（スポーツ実施頻度、実施意欲の改善効果）

（1）効果検証方法

メインターゲット及びサブターゲットに対して実施した事業の効果を検証するために、事前・当日・事後アンケート調査を実施し、週1日以上スポーツ習慣の定着や家事・育児時間の増加、スポーツ実施意欲の向上等について効果検証を実施した。

期待される効果と検証方法は以下のとおりである。

【図表 21】期待される効果と検証方法（メインターゲット：大人（父親））

期待される効果	検証方法
週1日以上 スポーツ習慣の定着率 (スポーツ実施率) 【目標：85%】	プログラム参加前（事前）及び参加後（事後）にアンケート調査を実施し、父親のプログラム参加前後のスポーツ実施頻度について比較分析を行い、スポーツ習慣の定着効果を検証する。
スポーツ実施意欲の向上	プログラム参加前（事前）及び参加日（当日）にアンケート調査を実施し、父親のプログラム参加前後のスポーツへの取組意欲について比較分析を行い、スポーツの実施意欲改善効果を検証する。
家事・育児時間の増加	プログラム参加前（事前）及び参加後（事後）にアンケート調査を実施し、父親のプログラム参加前後の家事・育児時間について比較分析を行い、スポーツの実施機会を確保することによる父親の家事・育児時間の増加効果について検証する。

【図表 22】期待される効果と検証方法（サブターゲット：子ども）

期待される効果	検証方法
スポーツ実施に対する 好意的評価者の割合 【目標：85%】	プログラム参加日（当日）にアンケート調査を実施し、参加者へのアンケート結果をもとに、子どものスポーツ実施に対する印象評価への影響について検証する。
スポーツ実施意欲の向上	プログラム参加日（当日）にアンケート調査を実施し、参加者へのアンケート結果をもとに、子どものスポーツへの取組意欲にもたらす影響について検証する。

(2) 効果検証の結果

【メインターゲット：大人（父親）への実施効果】

メインターゲットに対して期待される効果の検証結果は以下のとおりである。

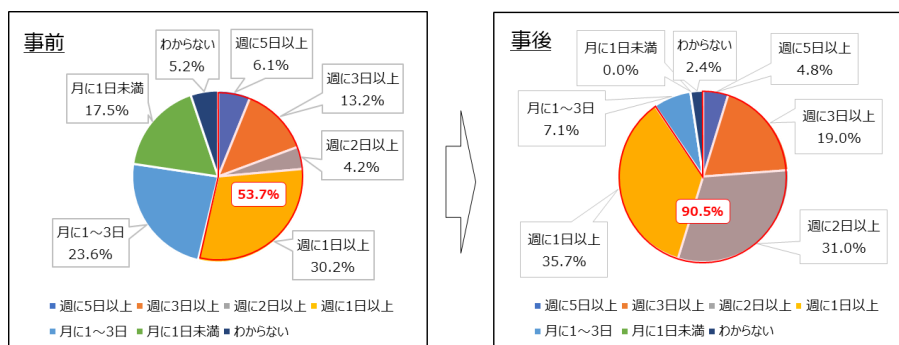
① 週1日以上スポーツ習慣の定着率（スポーツ実施率）

プログラム参加前（事前）及び参加後（事後）にアンケート調査を実施し、父親のプログラム参加前後のスポーツ実施頻度について比較分析を行った。

プログラム参加前後のスポーツの実施頻度に関する設問について、「週1日以上」実施していると回答した者の割合が「53.7%（212人中114人）」から「90.5%（42人中38人）」へ上昇しており、目標値の「85%」を上回る結果が見受けられた。

【図表 23】 週1日以上スポーツ習慣の定着割合（事前：n=212、事後：n=42）

（あなたは1週間あたり運動やスポーツをどのくらい実施していますか）



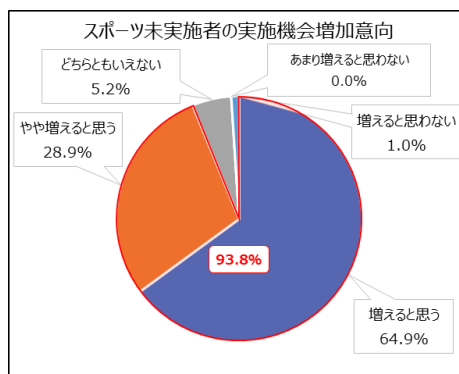
② スポーツ実施意欲の向上

プログラム参加前（事前）及び参加後（事後）にアンケート調査を実施し、父親のプログラム参加前後のスポーツへの取組意欲について比較分析を行った。

事前アンケート調査にて、スポーツの実施頻度が「週1日未満」であった者（スポーツ未実施者：98名/父親）のうち、事後アンケート調査におけるスポーツへの取組意欲に関する設問について、「そう思う（増えると思う）」、「ややそう思う（やや増えると思う）」と回答した者の割合が「93.8%（98人中91人）」であり、プログラムへの参加がスポーツ未実施者のスポーツ実施意欲を改善させる結果が得られた。

【図表 24】 スポーツ未実施者の実施機会増加意向（n=98）

（今後、あなたのお子さまとスポーツをしたり、スポーツについて話をしたりする機会は増えると思いますか）



③ 家事・育児時間の増加

プログラム参加前（事前）及び参加後（事後）にアンケート調査を実施し、父親のプログラム参加前後の家事・育児時間について比較分析を行った。

事前及び事後アンケート調査のなかで、父親の家事・育児時間について7段階で質問をしているが、各選択肢を以下のとおり点数化し、事前調査の数値と事後調査の数値の差を取ることで、家事・育児時間の増加効果について検証した。

その結果、家事時間については、「38.1%（42人中16人）」の父親が参加前の実施時間よりも一単位以上高い結果となり、育児時間については、「23.8%（42人中10人）」の父親が参加前の実施時間よりも一単位以上高い結果となった。

ただ、育児時間については、参加前の実施時間よりも一単位以上低い結果となった回答者の割合が「28.6%（42人中12人）」であり、一単位以上高い結果となった回答者の割合よりも高い結果となってしまった。

【図表 25】各選択肢の点数化

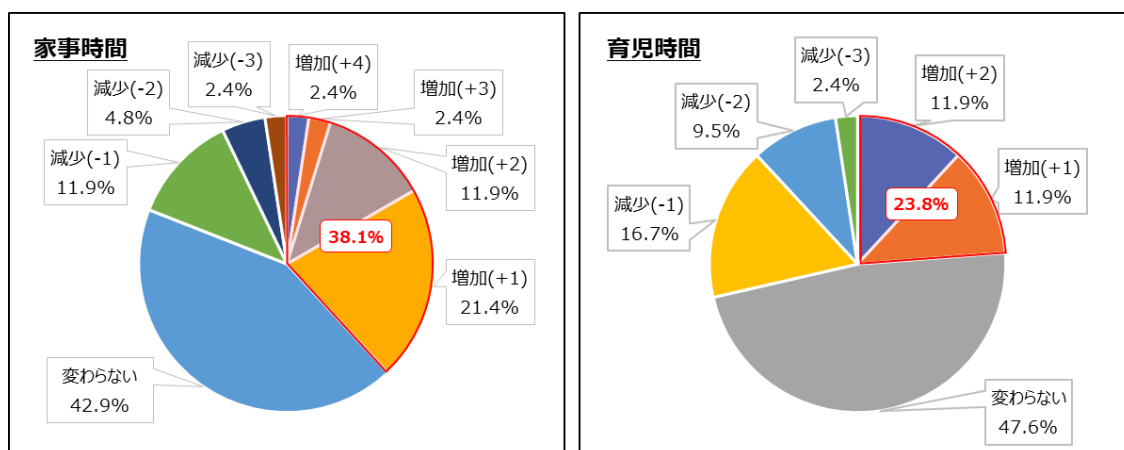
（あなたが1日あたり「家事／育児」にかかる平均時間を教えてください。）

点数	1点	2点	3点	4点	5点	6点	7点	
選択肢	30分未満	30分～1時間未満	1時間～2時間未満	2時間～4時間未満	4時間～6時間未満	6時間～8時間未満	8時間～10時間未満	10時間以上 ※事前のみ

※事前アンケート調査の「8時間～10時間未満」と「10時間以上」は合算する

【図表 26】プログラム参加前後の家事・育児時間の差分（n=42）

（プログラム参加「後」の実施時間（点）－プログラム参加「前」の実施時間（点））



【サブターゲット：子ども（未就学児から小学校低学年まで）への実施効果】

サブターゲットに対して期待される効果の検証結果は以下のとおりである。

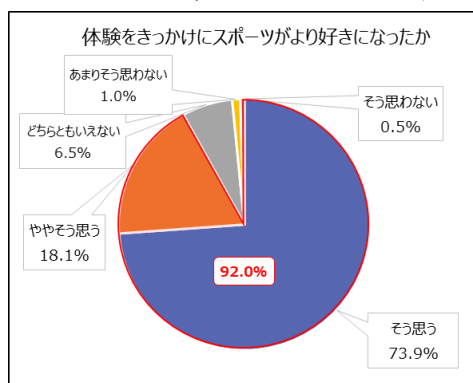
④ スポーツ実施に対する好意的評価者の割合

プログラム参加日（当日）にアンケート調査を実施し、参加者へのアンケート結果をもとに、子どものスポーツ実施に対する印象評価への影響について検証した。

当日アンケート調査のスポーツ実施に対する印象評価に関する設問について、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した者の割合が「92.0%（769人中707人）」であり、プログラムに参加した子どもたちの大部分が、今回のプログラムをきっかけに、「スポーツがより好きになった」と好意的な評価を示した。

【図表 27】 スポーツ実施に対する好意的評価者の割合（n=769）

（今日やったことをきっかけに、スポーツがより好きになりましたか）



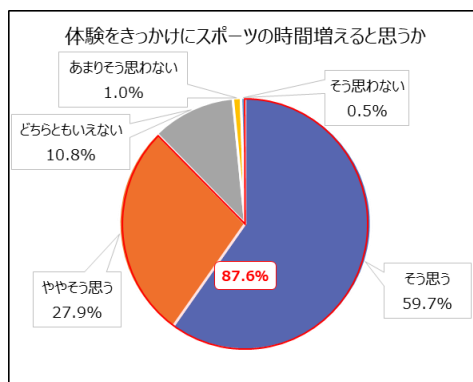
⑤ スポーツ実施意欲の向上

プログラム参加日（当日）にアンケート調査を実施し、参加者へのアンケート結果をもとに、子どものスポーツへの取組意欲にもたらす影響について検証した。

当日アンケート調査におけるスポーツへの取組意欲に関する設問について、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した者の割合が「87.6%（770人中675人）」であり、プログラムに参加した子どもたちの大部分が、今回のプログラムに参加した後、「スポーツをする時間が増える」という好意的な取組意欲を示した。

【図表 28】 スポーツ実施意欲の向上（n=770）

（今日やったことをきっかけに、スポーツをするじかんがこれまでよりもふえそうですか）



5. スポーツ実施改善の要因の分析（阻害要因や促進要因の仮説検証）

（1）スポーツ実施改善要因の分析

【ターゲットのスポーツ実施改善要因（阻害要因及び促進要因）】

ターゲットのスポーツ実施阻害要因は、①時間が取れない、②きっかけが無い、③気軽に活動できる場所がないという3点であり、促進要因は、①日常の家事・育児時間を活用すること、②子どもたちのスポーツに対する興味・関心の高さという2点であった。

【ターゲットにおけるスポーツ実施改善要因の分析結果】

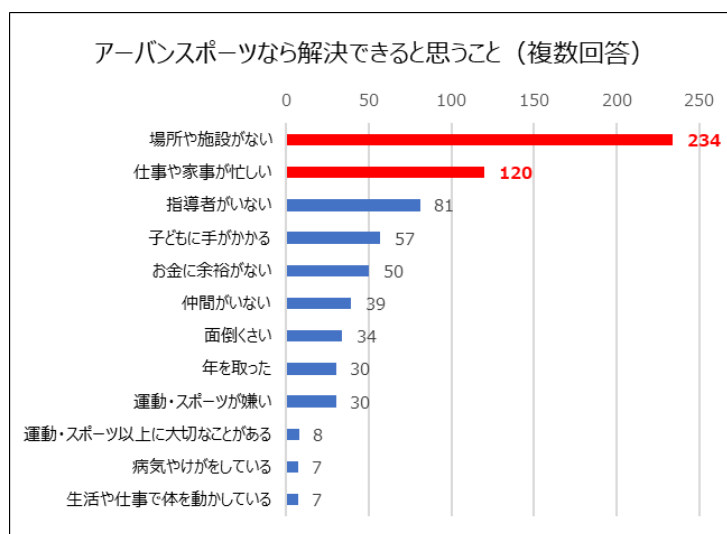
ターゲットのスポーツ実施改善要因について、以下のとおり、検証・分析を実施した。

① アーバンスポーツで解決を期待されるスポーツ実施障壁

プログラム参加日（当日）のアンケート調査にて、参加者（大人のみ）の「アーバンスポーツなら解決できると思うこと」についての設問に対する回答は以下のとおりである。

【図表 29】 解決が期待されるスポーツ実施障壁（複数回答）

（今回体験されたようなアーバンスポーツであれば解消できると思われるものにいくつでも○をつけてください）



図表 29 より、アーバンスポーツで解決が期待されるスポーツ実施障壁の上位 2 項目は、「場所や施設がない」、「仕事や家事が忙しい」であった。

この結果から、「場所や施設がない」は、参加者がアーバンスポーツに対して、阻害要因③「気軽に活動できる場所が無い」という項目の解決を期待していることが表れている。

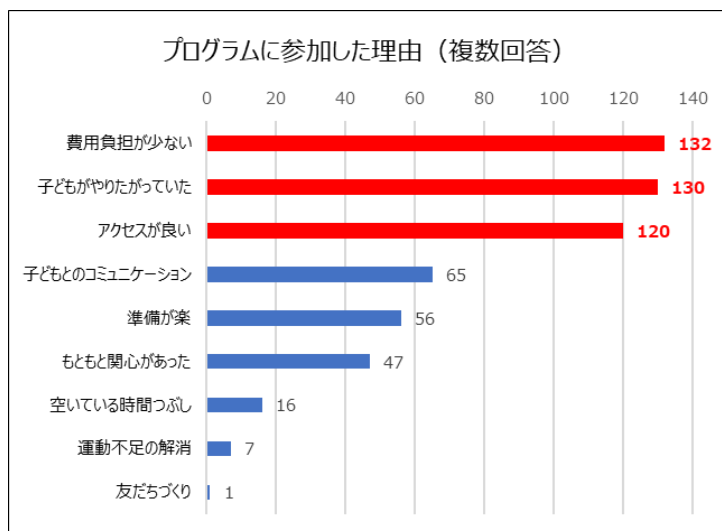
また、「仕事や家事が忙しい」は、阻害要因①「時間が取れない」という状況であっても実施可能なスポーツとして期待していることが表れている。

以上のことから、参加者は、プログラムへの参加を通じて、「ひとりで・自由に・手軽にできる」という競技の特性を体感することで、アーバンスポーツを小スペース・短時間で実施できる競技として認識し、本事業がスポーツ実施阻害要因の解決に向けた参加者の期待を高めることに寄与するものであったことが明らかになった。

② プログラムへの参加理由

プログラム参加前（事前）のアンケート調査にて、参加者（大人のみ）の「プログラムに参加した理由」についての設問に対する回答は以下のとおりである。

【図表 30】 プログラムへの参加理由（複数回答）
（今回参加しようと考えた理由は何ですか）



図表 30 より、プログラムへの参加理由の上位 3 項目は、「費用負担が少ない」、「子どもがやりたがっていた」、「アクセスが良い」であった。

この結果から、「費用負担が少ない」、「アクセスが良い」という項目は、本事業が参加者に「気軽に」スポーツをする「場所」を提供し、スポーツをする「きっかけ」を与えるものであったことを表しており、阻害要因②「きっかけが無い」、③「気軽に活動できる場所がない」に効果的なアプローチができた結果であると言える。また、「子どもがやりたがっていた」という項目は、促進要因①「日常の家事・育児時間を活用」、②「子どもたちのスポーツに関する興味・関心の高さ」が効果をもたらしたことを示唆している。

前述のとおり、本事業において、子どもの実施意欲はスポーツ実施促進要因として父親の行動変容に効果的な作用を發揮すると想定している。具体的には、一般家庭において、父親が子どもを連れて家庭外で行動する時間は「育児時間」であるとの認識があり、その行動先がプログラムへの参加であった場合、子どもの実施意欲が父親の「日常の育児時間」を「スポーツ」で活用するように作用したものと考えられる。

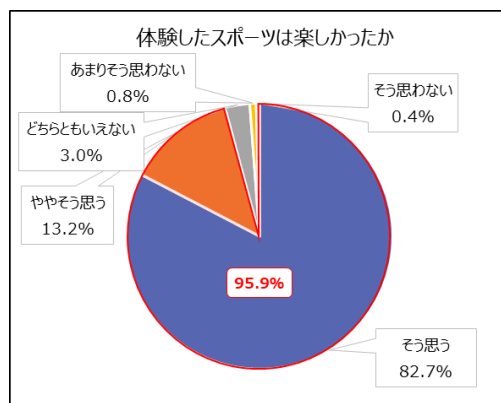
以上のことから、本事業が、参加者に対して、気軽にスポーツをする場所を提供し、スポーツをするきっかけを与えたことにより、子どもの実施意欲が増幅したことで、父親の家事・育児時間活用等の行動変容を促し、「週 1 日以上」のスポーツ習慣の定着（図表 ）において、プログラム参加前後で、父親のスポーツ実施率が「30%以上」改善された結果につながったのではないかと考察する。

③ 子どもたちの満足度

プログラム参加日（当日）のアンケート調査にて、子どもたちの「体験したスポーツは楽しかったか」、「体験したスポーツが楽しかった理由」についての設問に対する回答は、以下のとおりである。

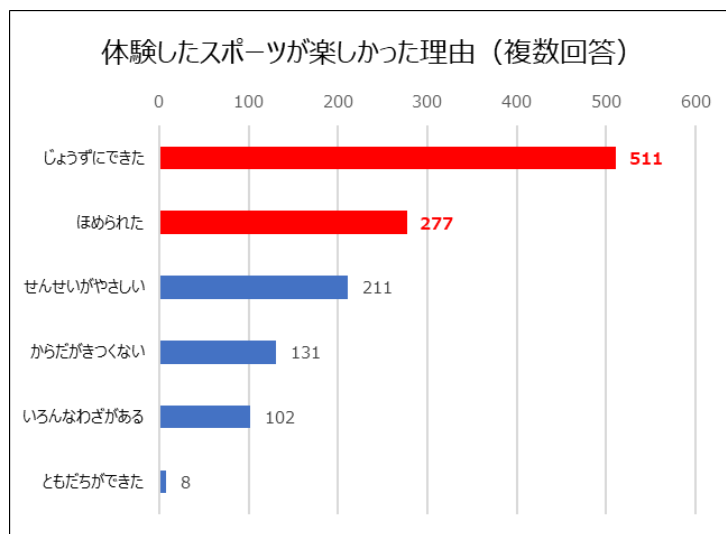
【図表 31】 体験したスポーツが楽しかったか (n=767)

(今回やってみたスポーツはたのしかったですか)



【図表 32】 体験したスポーツが楽しかった理由

(たのしかった理由はなぜですか)



図表 31 より、当日アンケート調査にて、「体験したスポーツが楽しかったか」という設問について、「そう思う」、「ややそう思う」と回答した者の割合が「95.9% (767 人中 735 人)」であった。また、図表 32 より、楽しかったと回答した者のうち、体験したスポーツが楽しかった理由の上位 2 項目は、「じょうずにできた」、「ほめられた」であった。

以上のことから、アーバンスポーツは、今回のような短時間のプログラムであっても、子どもたちに数多くの成功体験を提供できることが明らかとなった。

したがって、今回のプログラムではアーバンスポーツの成功体験と子どもたちの実施意欲との相乗効果が発揮され、より強い促進要因の効果を示したと考察する。

(2) 本事業から得られた波及効果

◆ 仮想的市場評価法によるアーバンスポーツ事業の事業性分析

今後の事業継続に向けては、本事業のようなアーバンスポーツを活用した事業が、どの程度の事業性を有するのかを調査・検証・分析する必要がある。

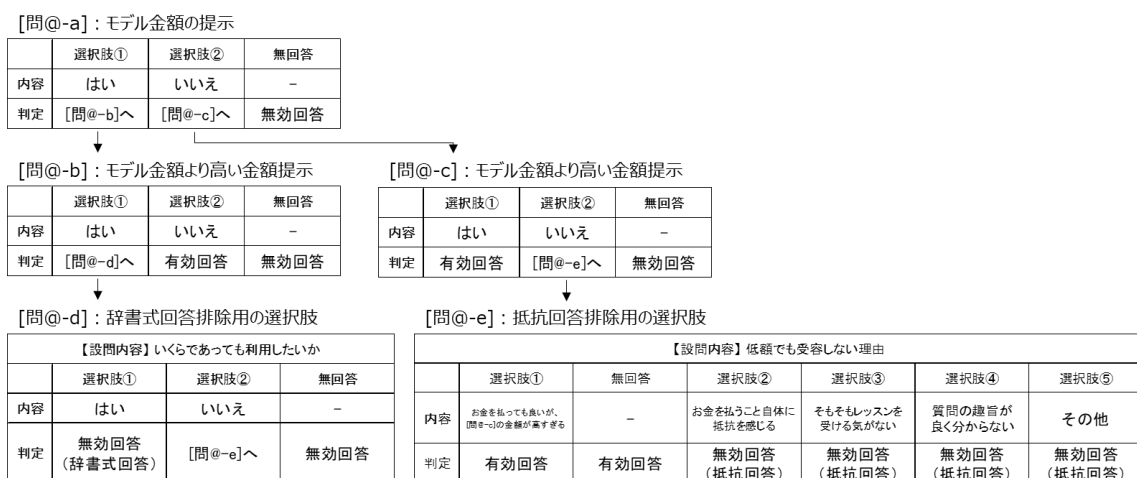
プログラム参加後（事後）のアンケートにて、(ア) 親子での会場利用、(イ) 親子でのスポーツ教室参加の事業性を評価するため、仮想的市場評価法（以下 CVM : Contingent Valuation Method）を用いて分析を行うための質問を「2 問」設けた。

CVM とは、アンケート調査を用いて、人々に支払意思額等を尋ねることで、通常市場で取引されていない財（効果）の価値を貨幣的に計測する手法であり、「便益の大きさ」を「金額」として評価できることが特徴である。

質問及び選択肢の設計においては、「二段階二項選択方式」を用いて、それぞれの金額に対する参加者の支払意思を確認する方法を採用した。

今回の調査票の金額は、「親子（大人 1 名、子ども 1 名）」で「1 時間」利用することを想定して、以下のとおり設定しており、各金額の幅や組み合わせについては、民間のスポーツセンター等の金額を参考としている。

【図表 33】二段階二項選択方式のフロー（選択肢の設計）



【図表 34】調査票の設定金額

【質問1】 パターン	<アーバンスポーツ会場> 調査票の設定金額(円)			【質問2】 パターン	<アーバンスポーツ教室> 調査票の設定金額(円)		
	初期提示額X	初期提示額Y	初期提示額Z		初期提示額X	初期提示額Y	初期提示額Z
①	500	1,000	200	①	1,000	1,500	500
②	1,000	1,500	500	②	1,500	2,000	1,000
③	1,500	2,000	1,000	③	2,000	3,000	1,500
④	2,000	3,500	1,500	④	3,000	5,000	2,000
⑤	3,500	5,000	2,000	⑤	5,000	7,000	3,000

① アーバンスポーツ会場（仮想レンタルパーク事業）の利用許容金額【質問 1】

「アーバンスポーツ会場」の利用条件は以下のとおりである。

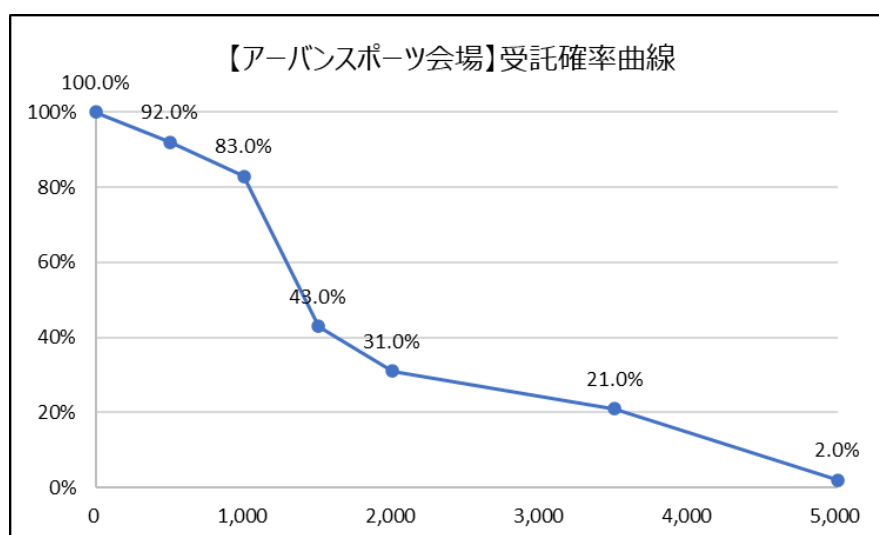
【図表 35】 アーバンスポーツ会場の利用条件

実施時間	10:00 ~ 16:00
実施可能なスポーツ	BMX、キックバイク、インラインスケート、スケートボード、ブレイブボード、3X3
利用可能時間	1時間(60分)

アンケートの調査結果をもとに、各金額の受託確率を算出し、受託確率と金額の区間幅を掛け合わせて、その合計金額を足し合わせ、利用許容金額を算出する。

回答者による親子での「アーバンスポーツ会場」の利用許容金額は以下のとおりである。

【図表 36】 受託確率曲線と利用許容金額の算出



区間(円)	区間幅(円)	台形の面積算定式	金額(円)
0 - 200	200	$200 \times (1.00 + 0.92) / 2$	192.0
200 - 500	300	$300 \times (0.92 + 0.83) / 2$	262.5
500 - 1000	500	$500 \times (0.83 + 0.43) / 2$	315.0
1000 - 1500	500	$500 \times (0.43 + 0.31) / 2$	185.0
1500 - 2000	500	$500 \times (0.31 + 0.21) / 2$	130.0
2000 - 3500	1500	$1500 \times (0.21 + 0.02) / 2$	172.5
3500 - 5000	1500	$1500 \times (0.02 + 0.0) / 2$	15.0
利用許容金額			1272.0

② アーバンスポーツ教室（仮想体験教室事業）の利用許容金額【質問2】

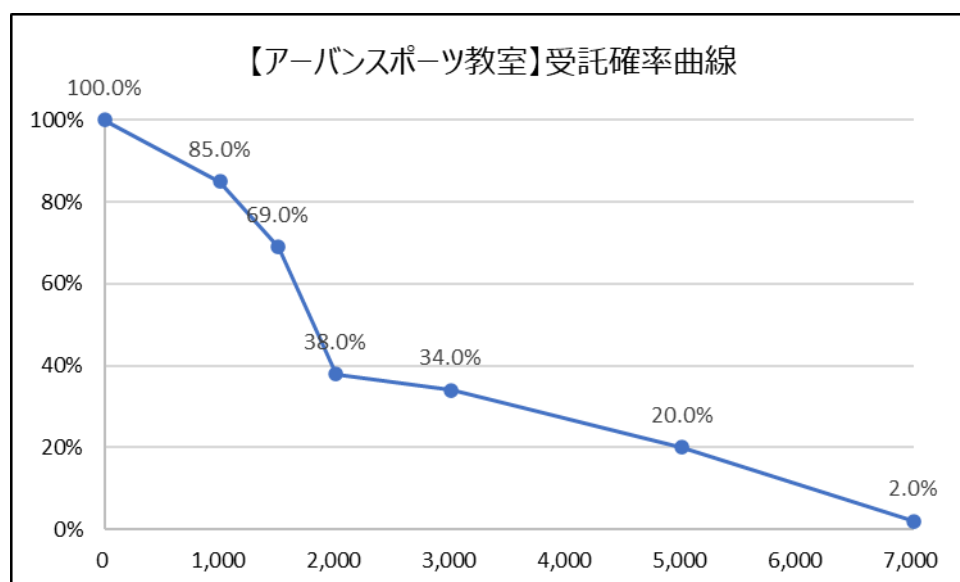
「アーバンスポーツ教室」の利用条件は以下のとおりである。

【図表 37】アーバンスポーツ教室の利用条件

実施時間	13:00 ~ 16:00
実施可能なスポーツ	インラインスケート、スケートボード、FSバスケットボール、FSフットボール
利用可能時間	1時間(60分)
インストラクター	各コンテンツにつき2名

回答者による親子での「アーバンスポーツ会場」の利用許容金額は以下のとおりである。

【図表 38】受託確率曲線と利用許容金額の算出



区間(円)	区間幅(円)	台形の面積算定式	金額(円)
0 - 500	500	$500 \times (1.00 + 0.85) / 2$	462.5
500 - 1000	500	$300 \times (0.85 + 0.69) / 2$	385.0
1000 - 1500	500	$500 \times (0.69 + 0.38) / 2$	267.5
1500 - 2000	500	$500 \times (0.38 + 0.34) / 2$	180.0
2000 - 3000	1000	$500 \times (0.34 + 0.20) / 2$	270.0
3000 - 5000	2000	$1500 \times (0.20 + 0.02) / 2$	220.0
5000 - 7000	2000	$1500 \times (0.02 + 0.0) / 2$	20.0
利用許容金額			1805.0

③ 各利用許容金額に基づく事業性の検討

前述の利用許容金額と本事業への参加者数をもとに、今回の実証実験におけるアーバンスポーツ事業の事業性について考察する。

レンタルパーク事業の参加者数は大人 654 名、子ども 667 名の合計 1,321 名であった。また、体験教室事業の参加者数は大人 113 名、子ども 132 名であった。

各利用許容金額の条件は、大人 1 名・子ども 1 名の親子（合計 2 人）であることから、各事業の「大人」の参加者数に基づく、本事業の収入予測は以下のとおりである。

【図表 39】 各事業の参加者数

参加者数	大人	子ども	合計
事業①：レンタルパーク事業	654	667	1,321
事業②：体験教室事業	113	132	245
合計	767	799	1,566

【図表 40】 各事業の収入予測

【事業①】 1,272円 × 654組 = 831,888円

【事業②】 1,805円 × 113組 = 203,965円

<合計>

1,035,853円

以上のことから、仮に今回の参加者から利用許容金額を収集した場合、「1,035,853 円」の収入が見込めることになるが、本事業の総予算額を考慮すると、採算性の確保が難しいことは明白である。しかしながら、アーバンスポーツ事業における利用許容金額の調査が実施された事例は皆無であり、本調査が国内でも先駆的な調査であったと断言できる。

そのため、今後、今回の利用許容金額と比較して、多くの調査・研究がなされることで、より精度の高い利用許容金額の評価が可能であるとともに、現状の金額においても、事業費の一部を補填する形で、他の事業や業種と連携することで、採算性を確保したアーバンスポーツ関連事業の創出につながっていくと考察する。

6. 今後の事業展開予定

(1) 事業継続や横展開に向けたポイント、課題

◆ 特定の種目に限定しない／競技志向に特化しない【ポイント】

本事業の企画コンセプトは「親子で一緒にスポーツをする“場づくり”を行うこと」であり、いかに子育て世代の親子の興味を惹いて、自由で気軽に身近な体験場所・機会を提供できるかを重要なポイントとしていた。また、アーバンスポーツは五輪正式種目に採用されたとはいえ、依然として「新しいスポーツ」であることから、競技人口は少なく、初めてアーバンスポーツに触れる層が大部分を占めている。

そのため、本事業はアーバンスポーツのうち特定の種目に限定することや競技志向に特化することはせず、可能な限り、間口を広げることで、参加者に「初めてアーバンスポーツを体験する場所・機会」を提供することができたことが、多くの市民のスポーツ実施率向上に寄与した。

◆ 行政の理解や協力【課題】

今回の実証実験では、「①コロナ禍でのスポーツ実施率向上」及び「②高架下や調節池といった未利用地の活用」という点で大きな結果を得ることができたことから、本事業は「未利用地利活用モデル」として事業の継続性や展開可能性を見出すものであったと考える。

ただ、アーバンスポーツという競技の特性上、市街地や都市公園内では敬遠される傾向が強く、行政側の理解や協力は必須であることから、今後の横展開に向けては、今回の結果が材料となり、いかに多くの自治体の理解や協力を得られるかが課題となる。

◆ スピード感をもった横展開によるビジネスモデルの確立【課題】

今回の実証実験を通じて、本事業に対する参加者の「利用許容金額」を把握することができたことから、今後、採算性を重視したアーバンスポーツ活用のビジネスモデルとして、民間事業者による事業継続の可能性を検討することが可能となった。

そのため、今後の事業継続に向けては、行政主導・民間主導問わず、いかにモデル事業としてスピード感をもって多くの実証件数を確保し、アーバンスポーツ活用のビジネスモデルを確立させることができるかが課題となる。

(2) 次年度以降の事業継続、横展開の計画

◆ 市内未利用地の活用

さいたま市内には、今回の実証フィールド以外にも多くの同一環境の未利用地が存在しており、次年度以降は、市内の他の未利用地を調査・研究し、同一ターゲットでの横展開の可能性を模索していく。

◆ オリンピックレガシーとしてのアーバンスポーツの推進

アーバンスポーツは、さいたま市開催予定種目の「バスケットボール」や「サッカー」に関連したコンテンツを含むため、市民の東京 2020 大会に対する関心を高め、機運醸成の一助となるソフト事業の実施を検討している。

(3) 今後の事業展開に向けて期待される Sport in Life プロジェクトにおける取組

◆ スポーツ庁「地域振興担当」との連携

アーバンスポーツを活用した事業を展開していくにあたり、現在、スポーツ庁地域振興担当にて実施している「アーバンスポーツツーリズム研究会」と「Sport in Life 推進プロジェクト」の連携を期待している。

アーバンスポーツツーリズムの考え方において、競技としての諸課題が議論されているなかで、アーバンスポーツを健康スポーツとして推進する視点は必要不可欠であり、アーバンスポーツという新しいスポーツを地域に根付かせるためにも、「Sport in Life 推進プロジェクト」レベルの横断的な取組が求められていると考えている。

◆ コロナ禍での「新しいスポーツの実践様式」の提唱

ウィズコロナ・アフターコロナの時代のスポーツの推進には、これまでの国民の価値観とは異なった視点が必要となり、ひとりで・自由に・手軽にできるアーバンスポーツの活用可能性は大きく広がっていくと考えている。

また、アーバンスポーツ以外にも、コロナ禍であるがゆえに脚光を浴びるスポーツ競技は数多く存在しており、「Sport in Life 推進プロジェクト」として、新しいスポーツの実践様式を提唱してはどうかと考える。

7. 終わりに

本事業は「父親と子どものスポーツ実施機会の確保」という点で有意義な結果を示すことができた。特に、ターゲットである「子育て世代」のスポーツ実施率向上は全国的な課題となっており、プログラムの参加前後で父親のスポーツ実施率を 30%以上向上させた本事業の内容は、「子育て世代のスポーツ実施機会の確保に向けたモデル事業」として、他地域への展開可能性を十分に示すことができたと考えている。

また、昨今、新型コロナウイルスの流行により、スポーツイベントは中止を余儀なくされ、「コロナ」を理由に多くのスポーツ実施機会が奪われる事態となってしまった。ウィズコロナ・アフターコロナの時代のスポーツの推進には、地域スポーツの担い手である各種協会や地域スポーツコミッション、地方自治体等が、これまでの市民の価値観とは異なる新しいスポーツの形が求められていることを十分に理解しなくてはならない。

本事業は新しいスポーツである「アーバンスポーツ」を活用して、多くの市民にスポーツ実施の機会を提供することができた。また、総参加者数はコロナ対策による人数制限を実施したにも関わらず、3 か月間で「1,500 名」を超えており、子どもたちの参加者の 9 割以上から「楽しかった」という好意的な評価を頂くことができた。

この結果は、コロナ禍における市民のスポーツ実施率向上を目的とした「生涯スポーツの振興」として、アーバンスポーツの活用可能性を示すものであり、自治体の費用負担が正当化されるための十分な材料になるのではないかと考えている。

さらに、本事業はアーバンスポーツ事業の事業性についての検討も行っていることから、行政主導の取り組みだけでなく、地域スポーツコミッションや民間事業者が主体となって、ビジネスモデルの確立に向けた様々な取り組みが実施されることを期待している。

参考資料 アンケート調査票・分析結果詳細

□ 参加者数

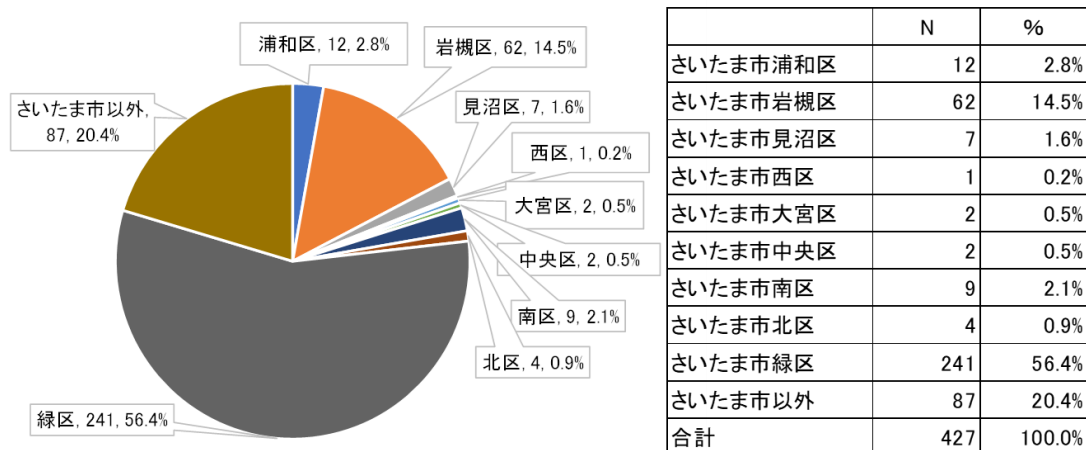
実施日	参加者数	大人	子ども
10月11日 (日)	31	14	17
10月17日 (土)	48	25	23
10月18日 (日)	117	55	62
10月24日 (土)	47	27	20
10月25日 (日)	50	24	26
10月31日 (土)	63	31	32
11月1日 (日)	82	39	43
11月3日 (火)	77	39	38
11月7日 (土)	83	39	44
11月8日 (日)	110	55	55
11月14日 (土)	70	34	36
11月15日 (日)	71	38	33
11月21日 (土)	55	27	28
11月22日 (日)	72	34	38
11月23日 (月)	83	39	44
11月28日 (土)	42	20	22
11月29日 (日)	52	27	25
12月5日 (土)	38	18	20
12月6日 (日)	75	38	37
12月12日 (土)	41	19	22
12月13日 (日)	77	38	39
12月19日 (土)	31	16	15
小計	1415	696	719

実施日	参加者数	大人	子ども
12月20日 (日)	151	71	80

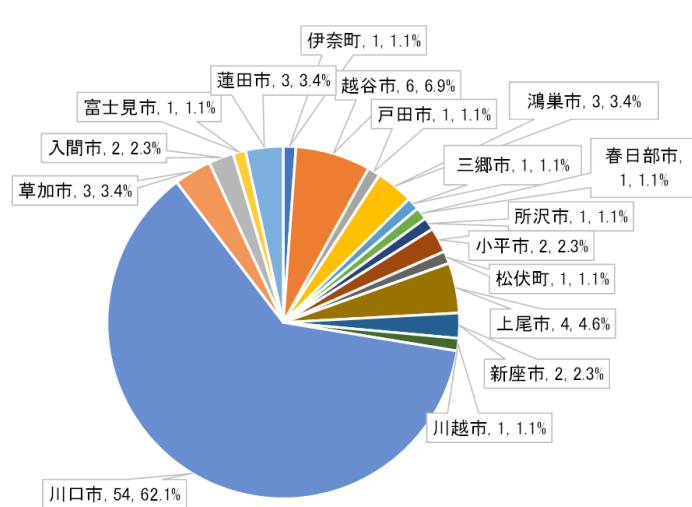
合計:22日間 (フリーエリア除く)	参加者数	大人	子ども
	1566	767	799

※参加者数は延べ人数
同日複数種目参加者、複数日参加者あり

□ 参加者の居住地 (さいたま市内：事前アンケート)



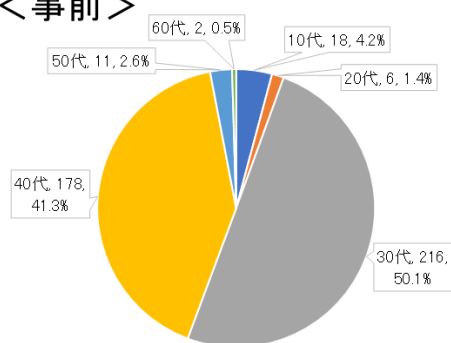
□ 参加者の居住地（さいたま市外：事前アンケート）



	N	%
伊奈町	1	1.1%
越谷市	6	6.9%
戸田市	1	1.1%
鴻巣市	3	3.4%
三郷市	1	1.1%
春日部市	1	1.1%
所沢市	1	1.1%
小平市	2	2.3%
松伏町	1	1.1%
上尾市	4	4.6%
新座市	2	2.3%
川越市	1	1.1%
川口市	54	62.1%
草加市	3	3.4%
入間市	2	2.3%
富士見市	1	1.1%
蓮田市	3	3.4%
合計	87	100.0%

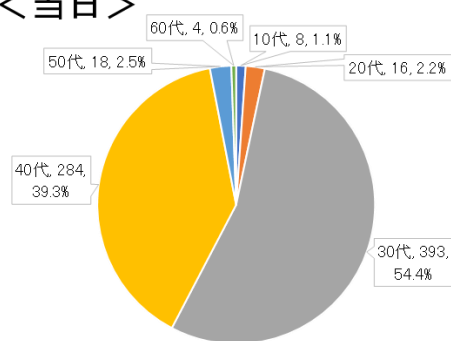
□ 参加者の年代（大人のみ：事前／当日アンケート）

<事前>



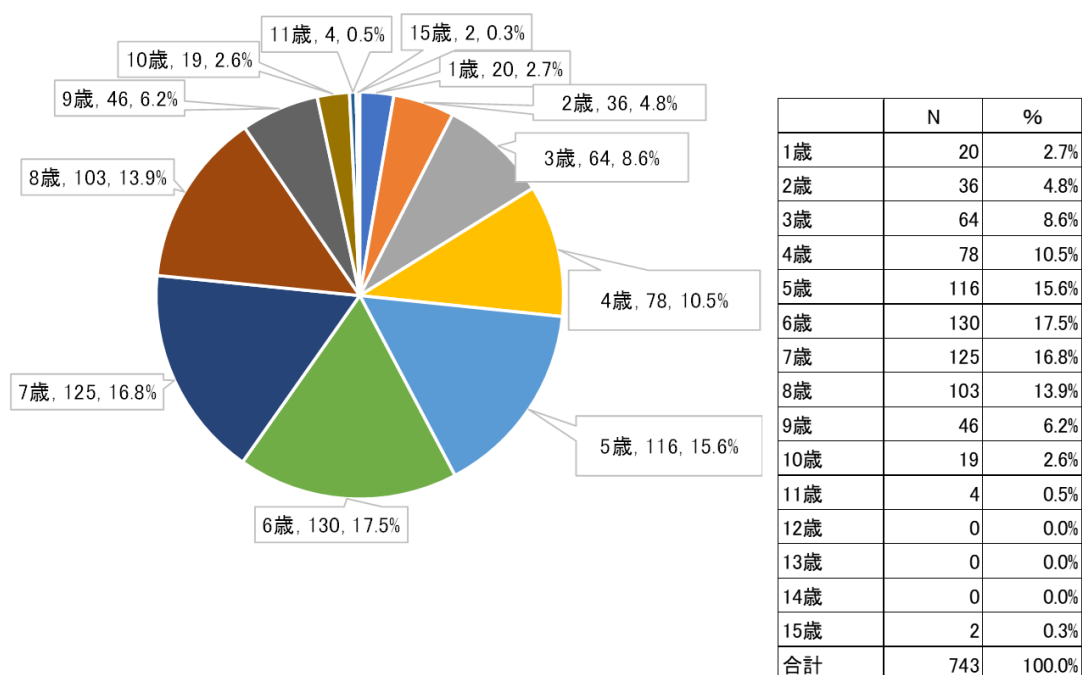
年代	N	%
10代	18	4.2%
20代	6	1.4%
30代	216	50.1%
40代	178	41.3%
50代	11	2.6%
60代	2	0.5%
合計	431	100.0%

<当日>

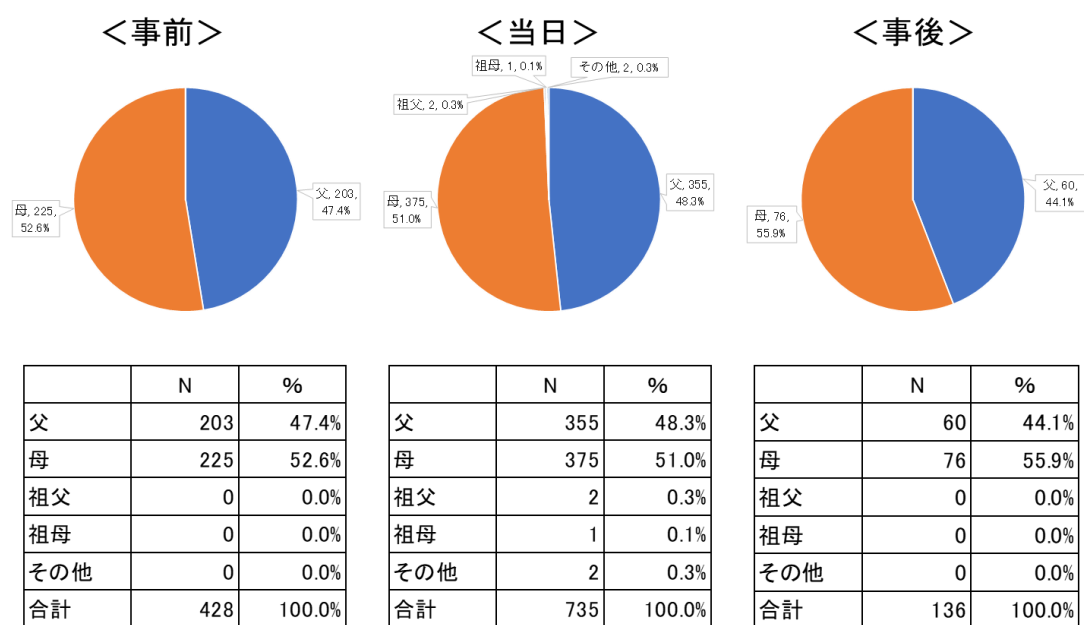


年代	N	%
10代	8	1.1%
20代	16	2.2%
30代	393	54.4%
40代	284	39.3%
50代	18	2.5%
60代	4	0.6%
合計	723	100.0%

□ 参加した子どもの年齢（子どものみ：当日アンケート）



□ 参加した子どもとの関係（大人のみ：事前／当日／事後アンケート）



□ 事業の流れ（アンケート調査）

(ア) 【事前】事前予約を行った代表者のみ「事前アンケート」(ネット) 調査を実施



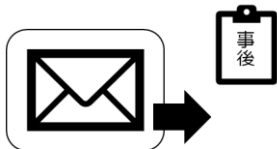
- ① 専用HPから予約フォームにアクセス
- ② 予約フォームで希望の日時・エリアを選択
- ③ 事前申込の際、代表者に**事前アンケート**を実施
- ④ 予約確認メールが送付される

(イ) 【当日】イベント参加後に参加者全員へ「当日アンケート」(紙) 調査を実施



- ① **【受付】**事前予約メール確認
- ② 検温／手指消毒
- ③ アーバンスポーツを体験
- ④ **当日アンケート**の記入 (大人用／子ども用)
- ⑤ レンタル品の消毒

(ウ) 【事後】事前予約を行った代表者のみ「事後アンケート」(ネット) 調査を実施



- ① 【参加日から約1週間後】代表者に**事後アンケート**を実施 (メール)

□ アンケート調査票

◆ 事前アンケート

【対 象】 大人（代表者 1 名） 【設問数】 10 問 + α

【調査方法】 インターネット：SELECTTYPE

項番	問 題	質問趣旨	【事前アンケート：SELECTTYPE】質問内容
※	※	基礎／属性	名前、性別、生年月日、都道府県、住所、電話番号、メールアドレス、ポリシー同意
1	Q1	運動頻度	あなたは1週間あたり運動やスポーツをどのくらい実施していますか。 この中から1つだけお答えください。
2	Q2	家事時間	あなたが1日あたり「家事（育児を含む）」にかかる平均時間を教えてください。 ※「育児（子育て）に関わる時間」とは「子どもの身支度」や「子どもの遊び相手」、「子どもの送り迎え」など、保護者の方がご家庭でお子さまと関わりを持っている時間のことを指しています。
3	Q3	育児時間	【2問目】のうち、「育児」にかかる平均時間を教えてください。 ※「育児（子育て）に関わる時間」とは「子どもの身支度」や「子どもの遊び相手」、「子どもの送り迎え」など、保護者の方がご家庭でお子さまと関わりを持っている時間のことを指しています。
4	Q4	子とのコミュニケーション頻度	あなたが1週間のうち、子どもとスポーツをしたり、スポーツについて話をする日数を教えてください。
5	Q5	参加理由	今回参加しようと考えた理由は何ですか。（複数回答可）
6	Q6	子との関係	参加されるお子さんとのご関係をお答えください。
7	Q7	クイズ形式 （マナー）	<マナーに関する質問> 以下の文章が正しければ「○」、間違っていれば「×」を選択してください。 ゴミを持ち帰ることはマナーに含まれるが、あいさつをすることはマナーに含まれない。
8	Q8	クイズ形式 （マナー）	<マナーに関する質問> 以下の文章が正しければ「○」、間違っていれば「×」を選択してください。 禁止されていない公道であれば、歩行者が多くても滑走してよい。
9	Q9	クイズ形式 （マナー）	<マナーに関する質問> 以下の文章が正しければ「○」、間違っていれば「×」を選択してください。 パークなどの施設に、行くとともに帰るときも、近所の人に迷惑をかけないようにする。
10	Q10	自由記述	ご質問・ご要望などございましたら、こちらへ記入ください。

◆ 当日アンケート

【対 象】 大人、子ども 【設問数】 (大人用) 13 問 + α (子ども用) 12 問 + α

【調査方法】 紙

(大人用：全員配布)

項番	問 題	質問趣旨	<大人>【当日アンケート：紙】質問内容
※	※	基礎／属性	参加エリア、日付、開始時間、グループ番号、性別
1	Q1	体験種目	今日あなたが体験したスポーツに○をつけてください。
2	Q2	コミュニケーションの機会	今後、あなたのお子さまとスポーツをしたり、スポーツについて話をしたりする機会は増えると思いますか。もっとも当てはまるものに○をつけてください。
3	Q3	事業評価	以下について、今回よかったと思われるものはありますか。あてはまるものにいくつでも○をつけてください。
4	Q4	講師評価	講師の説明はわかりやすかったですか。もっとも当てはまるものに○をつけてください。【体験教室のみ】
5	Q5	課題解決	次の事柄はスポーツが「できない理由」としてあげられるものです。今回体験されたようなアーバンスポーツであれば解消できるとと思われるものにいくつでも○をつけてください。
6	Q6-ア	クイズ形式 (マナー)	以下のア～ウについて、あなたが正しいと思うものに○、正しくないと思うものに×をつけてください。 ゴミを持ち帰ることはマナーに含まれるが、あいさつをすることはマナーに含まれない。
7	Q6-イ	クイズ形式 (マナー)	以下のア～ウについて、あなたが正しいと思うものに○、正しくないと思うものに×をつけてください。 禁止されていない公道であれば、歩行者が多くても滑走してよい。
8	Q6-ウ	クイズ形式 (マナー)	以下のア～ウについて、あなたが正しいと思うものに○、正しくないと思うものに×をつけてください。 パークなどの施設に、行くとともに帰るときも、近所の人に迷惑をかけないようにする。
9	Q7	同居続柄	あなたが現在一緒に住んでいる人すべてに○をつけてください。
10	Q8	子との関係	一緒に参加されるお子さんとのご関係であてはまるものに○をつけてください。
11	Q9	交通手段	会場まではどのように来られましたか。 主なものに一つ○をつけてください。
12	Q10	年代	あなたの年齢であてはまるものに○をつけてください。
13	Q11	職業	以下のうち、あなたのご職業には「あなた」の行(職業名に直接)に、配偶者がいらっしゃる場合は「配偶者」の行(職業名の直下)に○をつけてください。 ※「勤め人」とは、企業・団体・個人事業主などに雇われている人(被雇用者)を指します。 (嘱託写真・期間従業員・パートタイム・アルバイト・臨時雇用者を含む)

(子ども用：全員配布)

項番	問 題	質問趣旨	<子ども>【当日アンケート：紙】質問内容
※	※	基礎／属性	参加エリア、日付、開始時間、グループ番号、性別
1	Q1	体験種目	今日あなたがやってみたスポーツに○をつけてください。
2	Q2	事業評価	今日やってみたスポーツはたのしかったですか。 あてはまるものに○をつけてください。
3	Q3	評価理由	②で、「そうおもう」「ややそうおもう」とこたえた人のみこたえてください。 それはなぜですか。あてはまるものすべてに○をつけてください。
4	Q4	運動嗜好	今日やったことをきっかけに、スポーツがより好きになりましたか。 あてはまるものに○をつけてください。
5	Q5	運動時間	今日やったことをきっかけに、スポーツをするじかんがこれまでよりもふえそうですか。 あてはまるものに○をつけてください。
6	Q6	事業展開	今日やってみたスポーツを学校でもやりたいとおもいますか。 あてはまるものに○をつけてください。
7	Q7	コミュニケーションの機会	今日やってみたスポーツをきっかけに、スポーツについて家族とおはなしたいですか。 あてはまるものに○をつけてください。
8	Q8-ア	クイズ形式 (マナー)	ア〜ウについて、○(ただし)か、×(ただしくない)でこたえてください。 「あいさつすること」は、「マナー」には、はいりません。
9	Q8-イ	クイズ形式 (マナー)	ア〜ウについて、○(ただし)か、×(ただしくない)でこたえてください。 「きんしされているどうろ」じゃなければ、「あるいているひと」が、たくさんいてもスケートボードやブレイブボードですべても、だいじょうぶです
10	Q8-ウ	クイズ形式 (マナー)	ア〜ウについて、○(ただし)か、×(ただしくない)でこたえてください。 「あそぶとき」だけでなく、おうちからこうえんに「いくとき」も、「かえるとき」も、きんじょのひとにめいわくをかけないようにします。
11	Q9	講師評価	先生のせつめいはわかりやすかったですか。 あてはまるものに○をつけてください。【体験教室に参加したひとだけ】
12	Q10	年齢	あなたはなんさいですか。

◆ 事後アンケート

【対象】大人（代表者1名） 【設問数】19問

【調査方法】インターネット：(株)政策基礎研究所アンケートシステム

項番	問題	質問趣旨	【事後アンケート：EBPアンケートシステム】質問内容
1	Q1	運動頻度	今後、運動やスポーツをどのくらい行いたいですか。 この中から1つだけお答えください。
2	Q2	運動時間	参加後のお子さまのスポーツ実施時間は増えましたか。
3	Q3	家事時間	あなたが1日あたり「家事(育児を含む)」にかかる平均時間を教えてください。 ※育児時間は「子どもと過ごす時間」を指します。
4	Q4	育児時間	上記のうち、「育児」にかかる平均時間を教えてください。 ※育児時間は「子どもと過ごす時間」を指します。
5	Q5	子どものコミュニケーション頻度	あなたが1週間のうち、子どもとスポーツをしたり、スポーツについて話をする日数を教えてください。
6	序文	-	【問6、問7について】 今後の事業展開において参考としたいため、以下のような条件の体験施設があった場合を仮定して、設問にご回答ください。
7	Q6-a	需要調査	今回と同じ条件でスポーツができる会場では、1回の利用につき、保護者1人・子ども1人(合計2人)で一回につき合計《3,500円》(入場料、アイテムレンタル料込)の利用料がかかります。 【条件】 ・実施時間 10:00～16:00 ・できるスポーツ キックバイク・BMX、インラインスケート、スケートボード・ブレイブボード、3×3 ・利用可能時間 1時間 あなたはお子さんとこの会場にスポーツをしに行きたいと思います。 ※RANGE：3,500円／2,000円／1,500円／1,000円／500円
8	Q6-b	需要調査	aで「はい」と答えた方におたずねします。 参加にかかるお金がより高い、一回当たり《5,000円》でもこの会場にスポーツをしに行きたいと思いますか。 ※RANGE：5,000円／3,500円／2,000円／1,500円／1,000円
9	Q6-c	需要調査	aで「いいえ」と答えた方におたずねします。 参加にかかるお金がより安い、一回当たり《2,000円》であれば、この会場にスポーツをしに行きたいと思いますか。 ※RANGE：2,000円／1,500円／1,000円／500円／200円
10	Q6-d	需要調査	cで「いいえ」と答えた方におたずねします。 「いいえ」を選ばれた理由に最も近いものを1つ選んでください。
11	Q7-a	需要調査	今回と同じ条件でスポーツができる会場で体験教室(レッスン)に参加する場合、保護者1人・子ども1人(合計2人)で一回につき合計《5,000円》(入場料、アイテムレンタル料込)の受講料がかかります。 【条件】 ・実施時間 13:00～16:00 ・できるスポーツ インラインスケート、スケートボード、FSバスケットボール、FSフットボール ・インストラクターは各コンテンツにつき2名 ・利用可能時間 1時間 あなたはお子さんとこのレッスンを受けさせたいと思います。 ※RANGE：5,000円／3,000円／2,000円／1,500円／1,000円
12	Q7-b	需要調査	aで「はい」と答えた方におたずねします。 受講料がより高い、一回当たり《7,000円》でもこの会場でレッスンを受けたいと思いますか。 ※RANGE：7,000円／5,000円／3,000円／2,000円／1,500円
13	Q7-c	需要調査	aで「いいえ」と答えた方におたずねします。 受講料がより安い、一回当たり《3,000円》であれば、この会場でレッスンを受けたいと思いますか。 ※RANGE：3,000円／2,000円／1,500円／1,000円／500円
14	Q7-d	需要調査	bで「はい」と答えた方におたずねします。 レッスンの受講料がいくらであったとしても、この会場でレッスンを受けたいと思いますか。
15	Q7-e	需要調査	cで「いいえ」と答えた方におたずねします。 「いいえ」を選ばれた理由に最も近いものを1つ選んでください。
16	Q8	同居続柄	あなたが現在一緒に住んでいる家族をお答えください。(複数回答)
17	Q9	子どもの関係	参加されるお子さんとのご関係をお答えください。
18	Q10	経済状況	あなたの現在の経済的な暮らし向きは、いかがですか。
19	Q11	労働時間	あなた自身の総労働時間(時間外労働時間含む。2019年度の月あたり平均)についてお答えください。

□ 仮想的市場評価法（CVM）による事業性分析の詳細

◆ 設問の内容【アーバンスポーツ会場】（事後アンケート問6）

問6 ※四角内の前提を提示（XYZの金額を5種類設定）したうえで、次の質問に回答いただく。

以下のような今回と同じ条件でスポーツができる会場では、1回の利用につき、保護者1人・子ども1人（合計2人）で一回につき合計X円（入場料、アイテムレンタル料込）の利用料がかかります。

【条件】

- ・実施時間 10:00～16:00
- ・できるスポーツ キックバイク・BMX、インラインスケート、スケートボード・プレイボード、3 x 3
- ・利用可能時間 1時間

- あなたはお子さんとこの会場にスポーツをしに行きたいと思いますか。
- 問aで「はい」と答えた方におたずねします。参加にかかるお金がより高い、一回当たりY円でもこの会場にスポーツをしに行きたいと思いますか。
- 問aで「いいえ」と答えた方におたずねします。受講料がより安い、一回当たりZ円であれば、この会場にスポーツをしに行きたいと思いますか。
- 問bで「はい」と答えた方におたずねします。参加にかかるお金がいくらであったとしても、この会場にスポーツをしに行きたいと思いますか。
- 問cで「いいえ」と答えた方におたずねします。「いいえ」を選ばれた理由に最も近いものを1つ選んでください。

◆ 設問の内容【アーバンスポーツ教室】（事後アンケート問7）

問7 ※四角内の前提を提示（XYZの金額を5種類設定）したうえで、次の質問に回答いただく。

以下のような今回と同じ条件でスポーツができる会場で親子教室に参加する場合、保護者1人・子ども1人（合計2人）で一回につき合計X円（入場料、アイテムレンタル料込）の受講料がかかります。

【条件】

- ・実施時間 13:00～16:00
- ・体験できるスポーツ インラインスケート、スケートボード、フリースタイルバスケットボール、フリースタイルフットボール
- ・インストラクターは各コンテンツにつき2名
- ・体験教室時間 1時間

- あなたはお子さんにこのレッスンを受けたいと思いますか。
- 問aで「はい」と答えた方におたずねします。受講料がより高い、一回当たりY円でもこの会場でレッスンを受けたいと思いますか。
- 問aで「いいえ」と答えた方におたずねします。受講料がより安い、一回当たりZ円であれば、この会場でレッスンを受けたいと思いますか。
- 問bで「はい」と答えた方におたずねします。レッスンの受講料いくらであったとしても、この会場でレッスンを受けたいと思いますか。
- 問cで「いいえ」と答えた方におたずねします。「いいえ」を選ばれた理由に最も近いものを1つ選んでください。

- ◆ 無効票（抵抗回答／不正回答／無回答／辞書式回答）の処理について
事後アンケートの「問 6」、「問 7」についての回答結果から、異常回答を排除するため、以下のルールに基づいて無効票の処理を行った。
その結果、136 票中間 6 は「133 票」、問 7 は「128 票」が有効回答となった。

無効票のルール

回答の種類	分析対象から除外すべき回答の条件
抵抗回答	・問6eの「④質問の趣旨が良く分からない」に回答、「その他」の内容によって
不正回答	・二肢選択の設問のいずれかで、「①はい」「②いいえ」両方に回答
	・二段階目の設問の両方に回答し、かつ矛盾がある（ない場合はaのみ採用）
	・問6dで「①はい」と回答し、問6abcのいずれかで「②いいえ」と回答
	・問6eの「①」「②」の選択肢に回答し、問6a-cのいずれかで「①はい」と回答
無回答	・一段階目の設問が無回答
	・一段階目の設問を「①はい」と回答し、二段階目の設問が無回答
	・一段階目の設問を「②いいえ」と回答し、二段階目の設問が無回答
辞書式回答	・問6a、問6b、問6d共に「①はい」と回答

※問6dは辞書式回答の判定にのみ用い、回答非対象者が「いいえ」は不問

- ◆ 「アーバンスポーツ会場（問 6）」の利用許容金額の算出について
(ア) 各パターンへの回答結果（無効票は除く）

【問6】 パターン	＜アーバンスポーツ会場＞ 調査票の設定金額(円)			問6-a		問6-b		問6-c		合計
	初期提示額X	初期提示額Y	初期提示額Z	YES	NO	YES	NO	YES	NO	
①	500	1,000	200	20	6	7	13	4	2	26
②	1,000	1,500	500	9	17	3	6	14	3	26
③	1,500	2,000	1,000	8	19	1	7	10	9	27
④	2,000	3,500	1,500	7	17	0	7	6	11	24
⑤	3,500	5,000	2,000	1	29	0	1	8	21	30

- (イ) 回答結果より、b、cへの回答をもとに各金額の受託確率を算出

提示金額(円)	受託確率	算定式
0	1.00	
200	0.92	$(7+13+4)/26$
500	0.83	$(7+13+3+6+14)/(26+26)$
1000	0.43	$(7+3+6+1+7+10)/(26+26+27)$
1500	0.31	$(3+1+7+0+7+6)/(26+27+24)$
2000	0.21	$(1+0+7+0+1+8)/(27+24+30)$
3500	0.02	$(0+0+1)/(24+30)$
5000	0.00	$0/30$

◆ 「アーバンスポーツ教室（問7）」の利用許容金額の算出について

(ア) 各パターンへの回答結果（無効票は除く）

【問7】 パターン	＜アーバンスポーツ教室＞ 調査票の設定金額(円)			問7-a		問7-b		問7-c		合計
	初期提示額X	初期提示額Y	初期提示額Z	YES	NO	YES	NO	YES	NO	
①	1,000	1,500	500	19	7	6	13	3	4	26
②	1,500	2,000	1,000	9	19	1	8	8	9	26
③	2,000	3,000	1,500	10	15	0	10	4	10	24
④	3,000	5,000	2,000	8	16	0	8	6	10	24
⑤	5,000	7,000	3,000	1	27	0	1	6	21	28

(イ) 回答結果より、b、cへの回答をもとに各金額の受託確率を算出

提示金額(円)	受託確率	算定式
0	1.00	
500	0.85	$(6+13+3)/26$
1000	0.69	$(6+13+1+8+8)/(26+26)$
1500	0.38	$(6+1+8+0+10+4)/(26+26+24)$
2000	0.34	$(1+0+10+0+8+6)/(26+24+24)$
3000	0.20	$(0+0+8+0+1+6)/(24+24+28)$
5000	0.02	$(0+0+1)/(24+28)$
7000	0.00	$0/28$